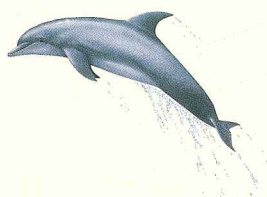


世界50カ国・地域の学生がAPUに、そしてAPUから世界へ。



立命館アジア太平洋大学  
 西暦2000年開学予定  
 — 設置認可申請中 —



# CONTENTS

## APUの基礎知識

- APUの概要…………… 2
- APUの理念…………… 3

## APUの教育システム

- APU教育システム…………… 4
- 言語教育システム…………… 6
- 情報ネットワークと世界への情報発信…………… 7
- 国際交流システム…………… 8
- 海外協定大学一覧…………… 9
- キャリア形成—インターンシップ、エクステンションの展開……………10

## アジア太平洋学部

- ファーストステージ…………… 12
- セカンドステージ…………… 12
- サードステージ…………… 14
- フォースステージ…………… 15

## アジア太平洋マネジメント学部

- ファーストステージ…………… 18
- セカンドステージ…………… 19
- サードステージ…………… 20
- フォースステージ…………… 21

## 進路指導

- APUからの進路の可能性… 22
- アジア太平洋マネジメント学部からの進路26
- アジア太平洋学部からの進路24

## APU・アドバイザー・コミッティ

- メンバーからのメッセージ…… 28
- アドバイザー・コミッティ・リスト…31

## APUの奨学金・学費

- 奨学金・学費…………… 32

## キャンパスライフ

- APUのキャンパスライフ…… 34
- 教育関連施設…………… 36
- 生活関連施設…………… 38
- 生活費・医療・保険等について…………… 41



## MESSAGE

# Ritsumeikan Asia Pacific University



立命館アジア太平洋大学長（予定者）

坂本 和一

SAKAMOTO Kazuichi

西暦2000年4月に開学する立命館アジア太平洋大学の目的は、世界の、とくにアジア太平洋地域の、さまざまな国、地域の若者が国境を越えてひとつのキャンパスに集い、ともに学び、ともに鍛え合う場を用意しようとするものです。

いま地球社会は、情報技術の革新や企業活動の急速な国際化を背景として、大規模なボーダレスの時代に入りつつあり、人間のさまざまな活動が、国境を越え、また文化・社会の違いを克服しながら活発に展開されています。またアジア太平洋地域は、今後さらなる経済的発展が予想されるとともに、世界の人々が訪れる観光ゾーンとしても注目されており、そうした発展と環境保全とのバランスをいかに維持していくかという問題の解決が急務とされています。加えて、アジア太平洋地域に存在する貧困の問題、人権の問題、平和の問題をどう考えていくかも21世紀に残された大きな課題です。

このような時代に、もっとも必要とされているのは、アジア太平洋地域や世界の多様性を理解し、グローバルな視野で考え、積極的に行動できる人材です。

来たるべき21世紀の地球社会の持続的な発展を図り、人々の平和な共存を実現していくためには、このような新しいタイプのリーダーが強く求められているのです。

立命館アジア太平洋大学は、このような、活力と創造性に富んだ人材を、アジア太平洋地域を拠点として養成し、世界へ送り出すことを目指しています。21世紀の地球社会の時代に大いなる活躍を夢みるみなさんの入学を心から歓迎します。



# がいよう APUの概要

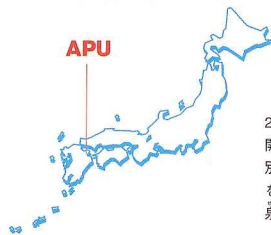
## 理想の大学教育を可能にする 最高のキャンパスの誕生。

現在APUのキャンパスが建設されているのは、別府湾を一望する大分県別府市。

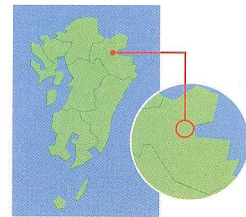
緑あふれるキャンパスには、立命館大学の授業をAPUで受けることができる<遠隔講義対応教室>を有した<教室棟>や、図書館をはじめインターネット端末などの各種情報機器がある<総合情報センター>、世界中から集まった留学生とともに共同生活を送る<APハウス>など、未来志向の大学にふさわしい教育・研究・情報・生活設備が勢揃いすることになります。



キャンパス完成予想図



2002年のワールドカップ開催地でもある大分県。別府市は大分県の国際化をリードする国際観光温泉文化都市です。

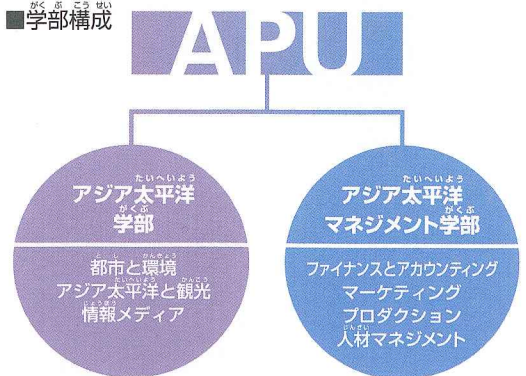


別府市街からAPUへバスで約20分。空路でのアクセスは国内線を中心とする大分空港、アジア・オセアニアからの国際便がある福岡空港を経由します。

## アジア太平洋の多様性と可能性に 対応する2学部7プログラムを展開。

アジア太平洋地域に関する広範な分野の基礎知識を身につけるとともに、各自が関心を持つ専門分野の知識と技能を修得することを目的に、<アジア太平洋学部>と<アジア太平洋マネジメント学部>の2学部を展開。さらに<アジア太平洋学部>では「都市と環境」「アジア太平洋と観光」「情報メディア」の3プログラムを、<アジア太平洋マネジメント学部>では「ファイナンスとアカウントティング」「マーケティング」「プロダクション」「人材マネジメント」の4プログラムを展開します。

### ■学部構成

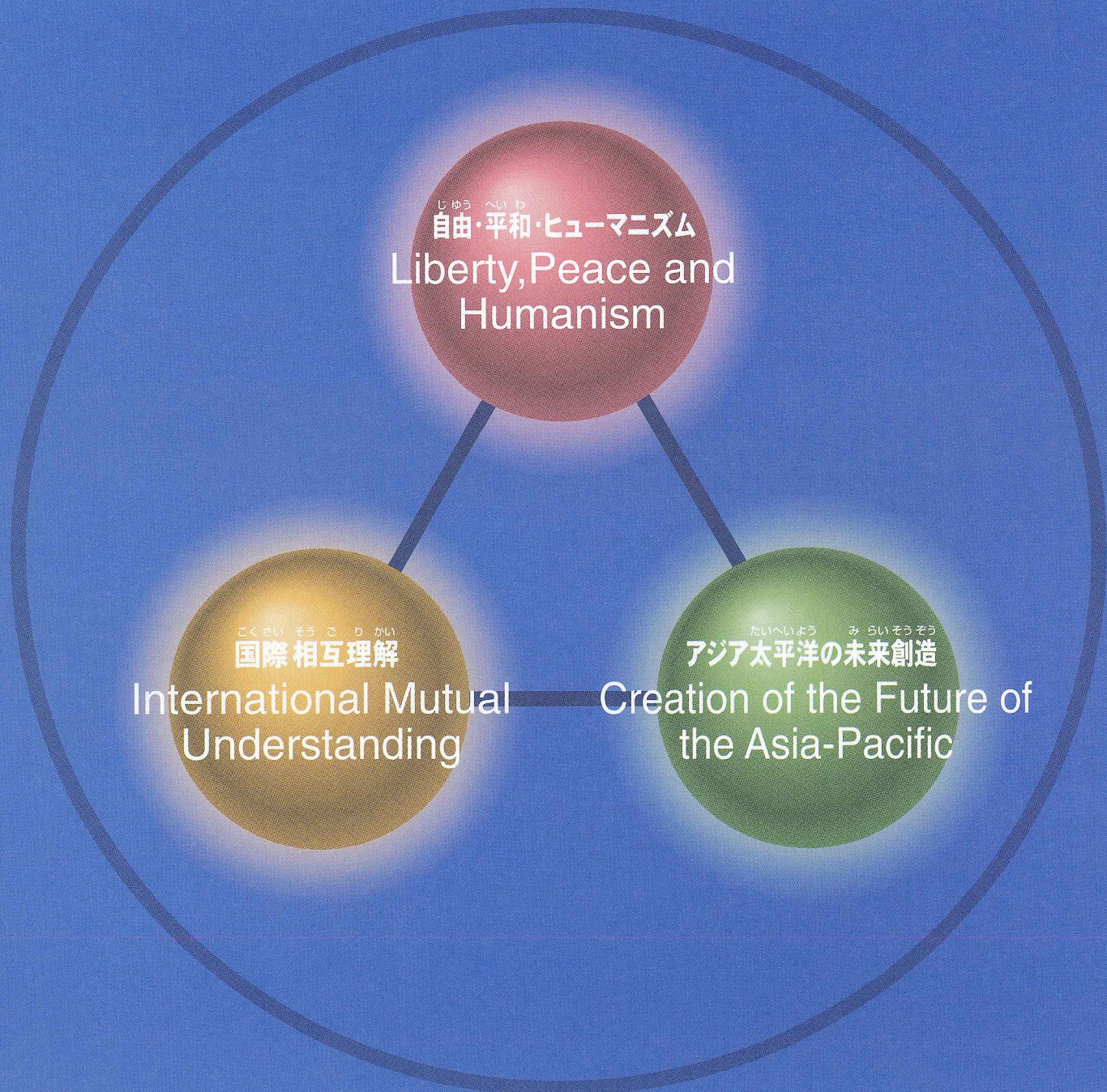


留学生50%。外国籍教員50%。  
世界50カ国の学生とともに学ぶ。

APUは、世界から学生と教員が集まり、ともに新しい<アジア太平洋学>という学問分野を創造していく大学です。学生もアジア太平洋地域を中心とする全世界から集まり、その主な対象は50カ国・地域にのびります。また教員についても全体の約50%以上を外国人が占めることとなります。そのためAPUの共通語は英語と日本語。さらにアジア太平洋地域で使用される7言語についても授業が行われますので、まさに多数の言語がとびかう「マルチカルチュラル・キャンパス」が誕生することになります。



# APUの理念



立命館アジア太平洋大学 (APU) の開学にあたって、その建学の精神となる理念が発表されました。APUの理念は「自由・平和・ヒューマニズム」を基調とし、その具体的な目標として、新しいアジア太平洋学の創出を通じてアジア太平洋地域の「国際相互理解」を促進し、政治・経済・経営・地域社会などの諸分野において「アジア太平洋の未来創造」のために貢献できる人材を育成することを掲げています。



# APUの教育システム

あたらしちちへいきひらみらいもと  
**新しい知の地平を切り拓き、未来に求**



## ■従来の大学教育の枠組みを越えて

「アジア太平洋学」という新しい学問分野を切り拓くとともに、21世紀の国際社会で活躍できる資質と能力をもった人材を育成することを目的に、APUではこれまでの世界中どの大学教育の枠組みにとらわれない独自の教育システムを導入します。

## ■多文化環境をいかしきる教育システム

APUは、世界約50カ国・地域から集まる留学生が約半数を占め、教員も約半数が外国籍という「マルチカルチュラル（多文化）・コミュニティ」です。キャンパスでは、これらの学生・教員が一体となり、民族・宗教・文化などの違いを越えてともに学び、生活しながら、相互に理解を深めていきます。このきわめてユニークで国際的な環境から得るものは非常に大きいといえるでしょう。

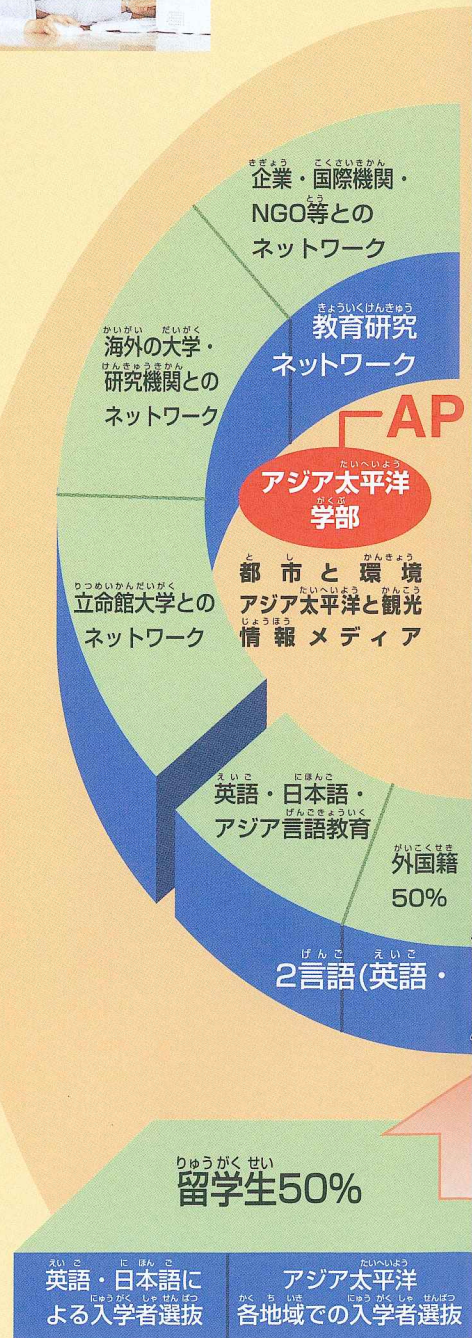
さらにこの環境がみなさん一人ひとりの成長とキャリア形成の中で最大限にいかされるよう、以下のような教育システムを準備しています。

### ①日本語および英語による2言語教育

APUでは、1・2年生で学ぶほとんどの科目が日本語で授業を行うクラスと英語で授業を行うクラスの両方が開講され、3・4年生ではいずれか一方の言語で授業を行うクラスが開講されます。例えば英語基準で入学した学生の場合、1・2年生時には英語による講義を受けながら、並行して言語教育科目を通じて日本語の力を養います。さらに3・4年生時からは日本語で開講されている専門科目を履修することで、高度な日本語能力を身につけていくことになります。

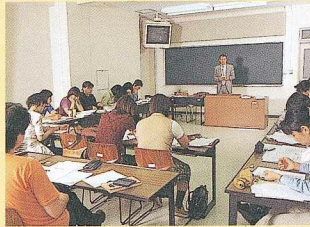
### ②教員と学生、日本人学生と留学生がともに教えあい、学びあう学習環境

少人数制の演習科目（ゼミナール）では、フィールドワークやケーススタディなどの実践・参加型教育を展開。グループ学習を前提に、教員と学生たちによる協働（コラボレーション）学習システムを通じて〈学び〉を深めていきます。また、講義科目においても質疑応答や討議などの形で学生が参加できる双方向型授業を重視します。





# められる能力を育成するために。



### ③ プロジェクト型学習と情報発信型学習の重視

特に演習科目（ゼミナール）では、具体的なテーマを定めてその問題点の分析、解決方法の検討などをおこなうプロジェクト型学習を重視します。また、その成果をインターネットや、キャンパス外での研究発表会などを通じて積極的に社会に発信していきます。

### ④ ネットワーク型学習の展開

APUの母体である立命館学園は世界23カ国・80を超える大学・機関と協定を結んでいます（1999年3月現在）。これらの大学・機関への留学や立命館大学との交流を積極的に進めます。さらにアドバイザー・コミッティ、アカデミック・アドバイザーをはじめとする各界の第一線で活躍されている方々による講演、インターンシップや共同研究などでの企業、自治体、国際機関、NGO（非政府組織）、NPO（非営利団体）との連携など、広範なネットワークをいかして多彩な教育を展開します。

#### ■ 異文化間の協調学習を活性化する「ピア・システム」

「ピア・システム」とは、国内の学生と留学生を4人程度の小グループに編成し、レポート作成やプレゼンテーションの準備、言語の教えあいなど、お互いに学習上のパートナーとして助けあっていく制度です。異文化交流経験が初めてという学生のみならず、スムーズにAPUの雰囲気にとけこみ、留学生と積極的に交流していくきっかけとして活用することができます。

#### ■ 能力を確実に高めるための支援システム

APUの教育システムを確実にみなさんの成長と自己実現に結びつけ、卒業後の進路を視野に入れたキャリアを形成するための支援を行います。

まず、一人ひとりの学習目標や志望する進路の実現に向け、適切な科目選択のアドバイス、学習指導などをおこないます。みなさんの学習や様々な活動の状況、スタッフによるアドバイスの内容などを「キャリア・カルテ」に書き込み、一人ひとりの実態・希望に即した系統的な援助を行う予定です。そしてまた、意欲とやりがいをもって学べるよう、1年間の授業設計を綿密なものにすると同時に、資格取得や将来の進路を視野に入れた各種講座も設置し、みなさんをサポートしていきます。



# げん ご きょうい く 言語教育システム

## せ かい つう よう こう ど げん ご のうりょく かく じつ いく せい 世界に通用する高度な言語能力を確実に育成。

### ■ 学習と実践の両面から言語を学ぶ

APUでは、1・2年生のほとんどの専門科目において、日本語で授業を行うクラスと英語で授業を行うクラスの両方が開講され、3年生以上の科目ではいずれか一方の言語で授業を行うクラスを開講します。英語基準で入学した学生については、3年生以降では日本語による専門科目の履修を奨励します。そのため2年生終了時点までに、日本語による授業を受けることができ、日本語での討論が可能なレベルに到達できるよう、最新の言語理論を用いたカリキュラムが用意されます。さらにビジネスやメディアで用いられる日本語など、学生の進路を視野に入れた、より専門的な日本語能力の育成をおこなう科目も提供されます。

### ● 2言語による授業開講のイメージ

#### ● 1・2年生

|     |      |       |
|-----|------|-------|
| 科目A | 英語授業 | 日本語授業 |
| 科目B | 英語授業 | 日本語授業 |
| 科目C | 英語授業 | 日本語授業 |
| 科目D | 英語授業 | 日本語授業 |

同じ内容で開講される英語と日本語の専門科目から随時自分で選択。

#### ● 3・4年生

|     |       |
|-----|-------|
| 科目E | 英語授業  |
| 科目F | 英語授業  |
| 科目G | 日本語授業 |
| 科目H | 日本語授業 |

科目によって開講される言語(英語・日本語)が違います。

に言語教育科目と他の科目(学術科目)を組み合わせて展開していくことも大きな特徴です。例えば「アジア太平洋の言語と文化」について学ぶ学術科目を履修する場合、その授業をサポートする少人数編成の言語教育科目を同時並行で学び、両方の授業を関連させながら理解を深めるといったカリキュラムが導入されます。

### ● 日本語授業と組み合わせた授業進行イメージ(例)

| 月曜                       | 火曜                                | 水曜                         | 木曜                       | 金曜                       |
|--------------------------|-----------------------------------|----------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 日本語(20人クラス)<br>*火曜の授業の準備 | アジア太平洋の言語と文化(200人授業)<br>*日本語による講義 | 日本語(20人クラス)<br>*火曜の講義のフォロー | 日本語(20人クラス)<br>*ディスカッション | 日本語(20人クラス)<br>*ディスカッション |

### ■ アジア太平洋諸国の8言語が学べる

APUでは、日本語と英語以外に中国語、韓国語、マレー語・インドネシア語、スペイン語、タイ語、ベトナム語を学ぶことも可能です。

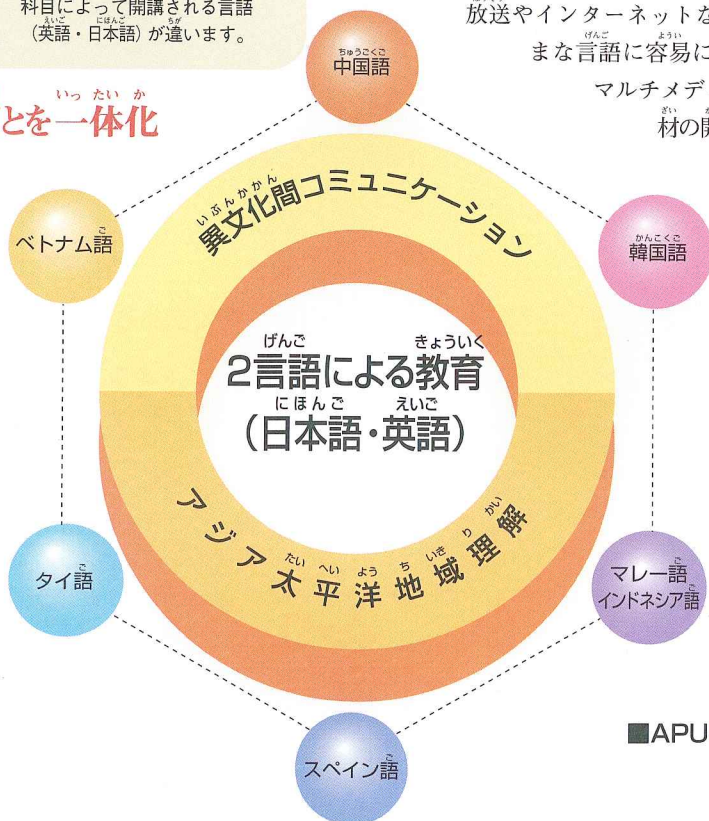
### ■ 最先端のマルチメディア環境をいかして

最先端のマルチメディア環境が用意されるAPU。それは言語教育にも積極的に活用される予定です。APUで学ぶ学生は、衛星放送やインターネットなどのメディアを通じて、さまざまな言語に容易に触れることができます。また、マルチメディアを駆使した新しい言語学習教材の開発も進めています。このように、

レベルに合わせてみなさんの言語能力をスムーズに向上させていく学習支援、自習支援システムでバックアップしますので、初めて学ぶ言語についても安心です。

### ■ 言語教育と学術科目とを一体化

これまでの大学の言語教育は、会話、文法、講義などを別々の科目として設定することが一般的でした。これに対してAPUでは、ひとつの科目で読む、書く、話す、聞くの4つの技能を関連づけて学び、そのすべてを確実に修得できるようにします。また、例えば総合的な英語運用能力を調べるTOEFLの得点や、日本語能力試験などを指標に客観的な到達目標を設けるとともに、それを単位認定の基準とするなど、みなさんが能力向上を確認しながら意欲をもって学べる仕組みをつくりまします。さら



■ APUの言語教育システム



# 情報ネットワークと世界への情報発信

## 最先端の情報システムで、近未来コミュニケーションを体験。

### ■キャンパスの全構成員が世界とネットワーク

インターネットや衛星通信に代表される世界的な情報ネットワークの出現は、世界中の人々のコミュニケーションに対する考え方を一変させつつあります。APUでも単にキャンパス内の情報設備・環境を充実させるだけでなく、コミュニケーションを通じて「マルチカルチュラル・コミュニティ」を発展させ、世界と自由自在に交流し、情報発信できるネットワークが構築されます。学生のみならずもちろん、教職員を含めたAPUの全構成員が情報ネットワークに参加し、交流や情報の発信をおこないます。さらに立命館大学や海外協定大学も含め、グローバルなコミュニケーションを展開していく予定です。

### ■世界中の情報を集め、世界に研究成果を発信する

APUでは、約1000台のパソコンを授業・学生用として設置します。これらは、キャンパス内の情報ネットワークに加え、インターネットにも接続されます。また、キャンパスに併設

された学生居住施設〈APハウス〉にも、ネットワークされたコンピュータが設置されます。

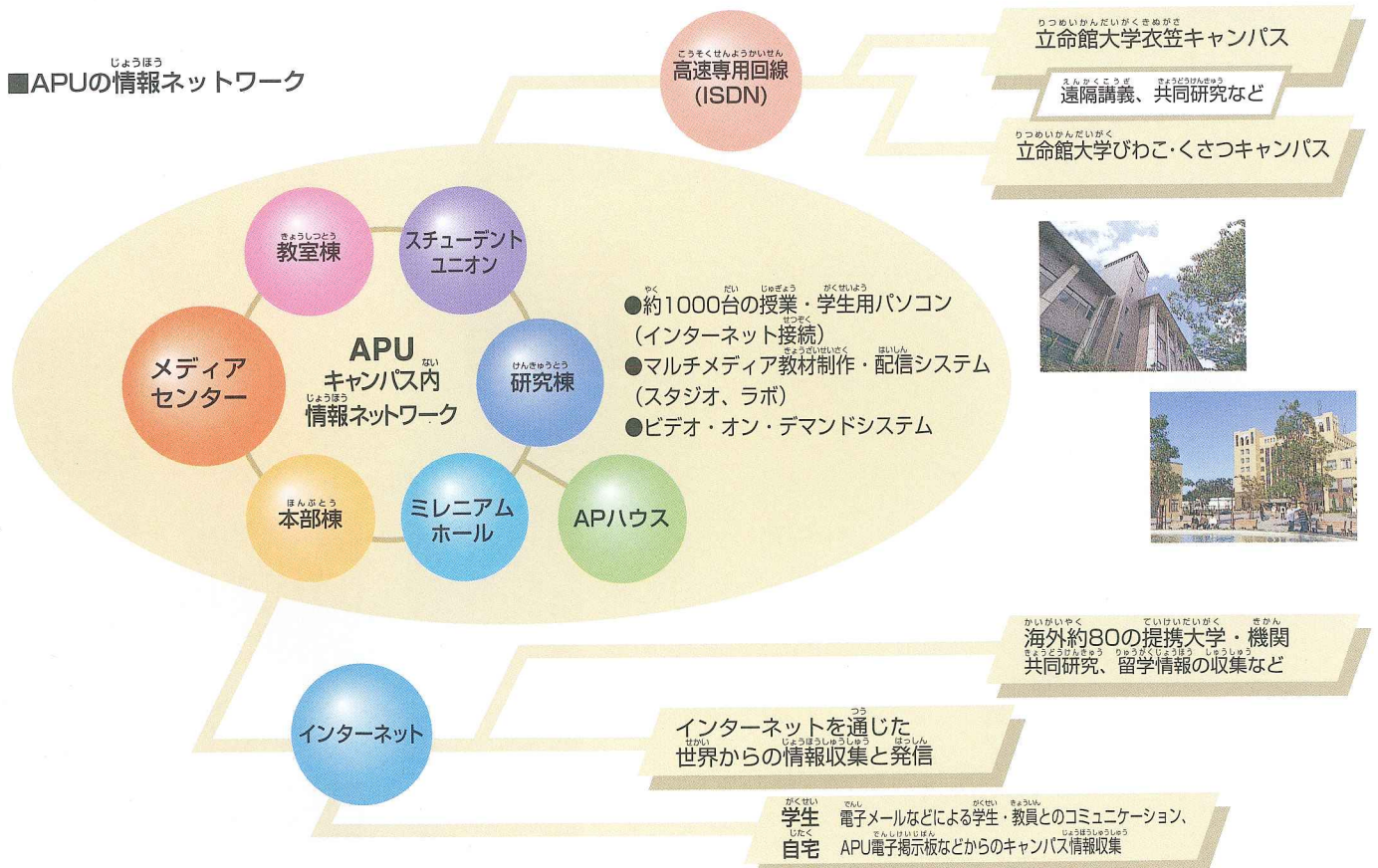
APUではこうした環境を活用し、さまざまな情報を世界から入手して研究にいかしていくことはもちろん、積極的に研究成果を世界に発信していきます。さらに、演習（ゼミナール）での討論や教員・学生間の連絡、レポート提出、教材の配布、履修登録等、学生生活のさまざまなシーンで情報ネットワークがフルに活用されるでしょう。

### ■マルチメディアを活用し、新しい学びのスタイルを

APUは、マルチメディアシステムを積極的に活用し、新しい教育を創造します。

例えば、講義の模様をデジタル画像データとして保存し、いつでも自由に閲覧できる「講義データライブラリー」（言語教育で使用）や、コンピュータを活用したビデオ教材などが制作される予定です。

### ■APUの情報ネットワーク





こくさいこうりゅう  
国際交流システム

かこく きかん  
24カ国・80機関とネットワーク。世

せかいじゅう わす まな  
世界中を結んだ学びがはじまる

APUの母体である立命館学園は世界24カ国・80を超える大学・研究機関と協定を結んでいます(1999年4月現在)。これらの大学・機関とは、交換留学や語学研修の実施、共同研究、学生や教員の交流、教員の招聘など、さまざまな形でパートナーシップを展開していきます。

かいがいりゅうがく ごがくけんしゅう じゅうじつ  
海外留学や語学研修プログラムも充実

APUで身につけた高度な言語運用能力や専門知識を日本以外で試してみたい—APUはそのような要望にも積極的に応えていきます。

まず、1年程度の長期留学プログラムを積極的に開発し、多数の学生が海外の大学で現地学生同様の専門教育を受けられるようにします。また、夏期・春期の長期休暇期間を利用した1か月程度の語学研修プログラムを、各種の言語について実施する予定です。さらに、留学先(協定校)で取得した単位についてはAPUの単位として認定しますので、4年間で大学を卒業することが可能です。

かいがい だいがく けんきゅうきかん との きょうどうけんきゅう すいしん  
海外の大学・研究機関との共同研究を推進

協定大学・研究機関の間では、共同研究も積極的に進められる予定です。例えば、共通するテーマをもつ海外の大学のゼミナール(少人数の演習授業)とAPUのゼミナールが、インターネットなどを通じて意見交換しながら共同で研究を進めていくといったこともおこなわれます。もちろん、「フィールドワーク」なども通じて積極的に海外に飛び出していきます。

りつめい かん だいがく まな  
立命館大学でも学べる

APUと同一法人のもとに運営される立命館大学の各学部(法・経済・経営・産業社会・国際関係・政策科学・文・理工)でも学ぶことができるプログラムを準備しています。また、情報ネットワークを用いて、APUで立命館大学の講義が受講できる(遠隔地講義)制度も導入します。

りつめい かん がく えん せいようてい だいがく きかん  
立命館学園の協定大学・機関



エディンバラ大学



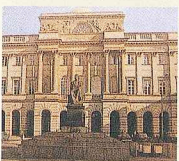
ウーリック大学



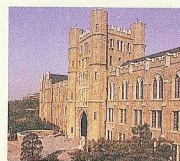
チュービンゲン大学



トゥールーズ第一社会科学大学



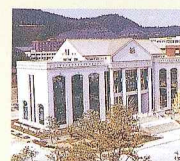
ポーランド科学アカデミー 社会科学部



高雄大学



ソウル大学



清華大学



華東師範大学



南開大学



同济大学



国立台湾師範大学

ヨーロッパ  
〈英国〉

エディンバラ大学  
サセックス大学  
ウーリック大学

〈ドイツ〉

ベルリン・フンボルト大学  
チュービンゲン大学  
フライブルグ大学

〈フランス〉

ボルドー政治学院  
トゥールーズ第一社会科学大学  
トゥール経営大学院大学  
パリ第一大学  
トゥールーズ・ル・ミラーユ大学

〈ギリシャ〉

アテネ大学

〈ポーランド〉

ポーランド科学アカデミー  
社会科学部

〈ロシア連邦〉

ロシア科学アカデミー  
東洋学研究所

●アフリカ

〈ケニヤ〉

ジョモ・ケニヤッタ農工大学



# かい じゅう 界中がキャンパスになる。

## ●アジア

〈韓国〉  
梨花女子大学  
高麗大学  
慶熙大学  
釜山国立大学  
ソウル大学  
蔚山大学  
延世大学

## 〈中国〉

香港中文大学  
東北財経大学  
華東師範大学  
復旦大学  
吉林大学  
南京大学  
南開大学  
同済大学  
清華大学  
中山大学  
上海社会科学院

## 〈台湾〉

国立政治大学  
国立台湾師範大学  
中央研究院

## 〈マレーシア〉

マラヤ大学  
マレーシア戦略国際問題研究所

## 〈シンガポール〉

ナンヤン工科大学  
シンガポール国立大学

## 〈インドネシア〉

アングラス大学  
ガジャマダ大学  
インドネシア大学  
西スマトラ州政府

## 〈タイ〉

サイアム大学  
タマサート大学  
タイ国立開発行政研究院

## 〈フィリピン〉

アテネオ・デ・マニラ大学  
デ・ラ・サール大学  
アジア太平洋大学  
フィリピン国立大学

## 〈ベトナム〉

ハノイ工科大学  
フエ大学  
ハノイ国家大学  
ホーチミン市国家大学  
ホーチミン市工科大学  
ベトナム教育訓練省

## 〈インド〉

インド国立外国語大学  
ジャワハラル・ネルー大学  
デリー大学  
マドラス大学

## 〈スリランカ〉

コロンボ大学

## ●北米

### 〈アメリカ合衆国〉

アメリカン大学  
イリノイ・カレッジ  
ハワイ大学  
オクラホマ大学  
ピッツバーグ大学  
南カリフォルニア大学  
レンスラー工科大学  
APSIA (国際関係学全米大学院連合)

### 〈カナダ〉

オカナガン・ユニバーシティ・カレッジ  
ブリティッシュ・コロンビア大学

## ●中南米

〈メキシコ〉  
イベロアメリカーナ大学

### 〈ペルー〉

ペルー学術外交院  
ペルーカトリック大学  
経営大学院大学  
リマ大学  
国立農業大学  
国立工科大学  
太平洋大学  
ペルー大学カイエタノ・エレディア

## ●オセアニア

### 〈オーストラリア〉

マコーリー大学  
メルボルン大学

### 〈ニュージーランド〉

ヴィクトリア大学  
アジア2000年財団



アメリカン大学



イリノイ・カレッジ



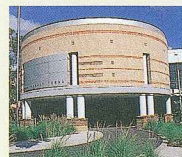
マラヤ大学



タマサート大学



フィリピン国立大学



マコーリー大学



ハワイ大学



ガジャマダ大学



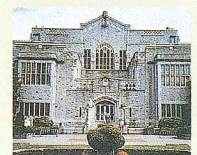
デ・ラ・サール大学



ハノイ国家大学



ヴィクトリア大学



ブリティッシュ・コロンビア大学



# キャリア形成

のう りょく かい はつ もく ひょう じつ げん こま  
**能力開発と目標の実現をきめ細かくサポート。**

## 夢を実現にする「キャリア形成」の考え方

APUでは、すべての学生が意欲的に学び、確かな力を身につけ、それを卒業後の進路へと結びつけられるように、さまざまな支援をおこないます。4年間の全学生生活を「キャリア形成」という大きな枠組みでとらえ、正課教育と能力開発、進路指導を一体化。将来のための目標づくりから、その実現にはどうすればいいのかというメニューづくり、実際のプログラムの提供まで、すべてにわたってきめ細かくサポートをおこないます。また、これらを総合的に支援していく機関として〈キャリア・センター〉を設けます。

## 未来を拓くための多様なプログラム

### ＜進路・就職支援プログラム＞

1年生の段階でみなさんの希望進路や学びたい領域をヒアリングし、「キャリア・カルテ」を作成。履修科目の選択等を含め、希望実現のための学び方のアドバイスをおこないます。また、各界の第一線で活躍している方々を招いての講演会やフォーラムを随時開催し、進路についての意識を早くから高めていけるようにします。さらに学生のみなさんによるワークショップ活動を

積極的に支援します。ワークショップは、同じ目標、問題意識をもつ学生が集まり、自主的な学習活動を通じて、実社会を見る目を育てたり、職業意識を形成していく場です。このワークショップは各分野に関連する教員の全面的な協力のもとに展開されます。もちろん、就職セミナー等の支援プログラム、求人情報等の提供、各種の相談受付など、万全の就職サポート体制を用意します。

### ＜エクステンション・プログラム＞

正課の授業と並行して、進路や資格試験を視野に入れたエクステンション講座を開設します。また、夏期・春期の長期休暇（セッション）中には、集中的に言語を学ぶプログラムも用意します。

### ＜インターンシップ・プログラム＞

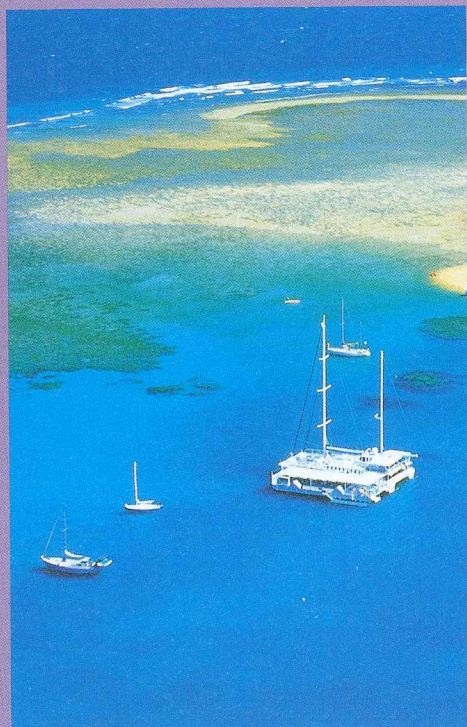
企業や自治体、NGO（非政府組織）、NPO（非営利団体）などで、実際の仕事に触れながら学ぶ「インターンシップ」の機会も積極的に設けられます。学生各自の研究を深めていくことはもちろん、仕事への理解を深め、また実践力を磨くという点でも大きな役割を果たすこととなります。

## APUのキャリア形成プログラム





たいへい ようがく ぶ  
**アジア太平洋学部**  
 College of Asia-Pacific Studies

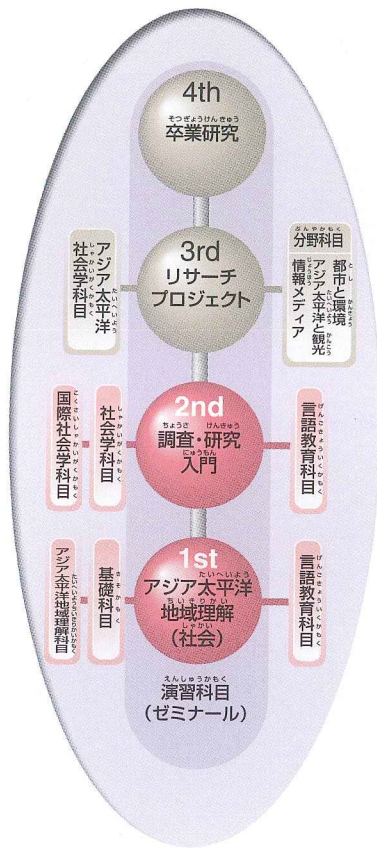
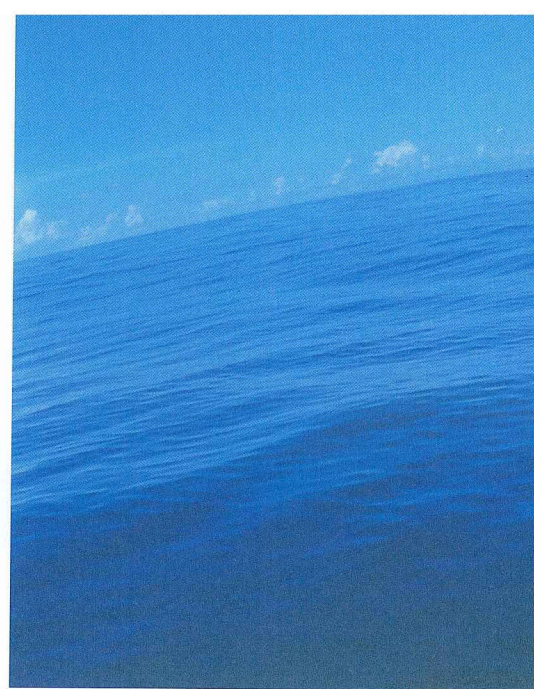


アジア太平洋学部では、広大なアジア太平洋地域の多様な文化、歴史、社会事情や自然環境などに関する基礎知識と、英語ならびにアジア太平洋地域の言語を理解し、駆使できる能力を核として、「都市と環境」「情報メディア」「アジア太平洋と観光」といった分野の専門知識の修得を目指します。

将来は国際舞台の諸分野で活躍する人材を想定し、アジア太平洋発展のための諸問題を解決する上で欠かせない、リサーチ技術、問題提起能力、ディベート能力、問題解決能力の育成をはかるために、具体的テーマを設定した<リサーチ・プロジェクト演習>なども展開されます。アジア太平洋地域を中心に世界中から学生が集まるAPU ならではの、「世界各国の生の情報」をいかし、「世界情勢とリアルタイムで連動した」授業が展開されます。



たいへい ようがく ぶ まな かた  
**アジア太平洋学部での学び方**



# 1st Stage •ファーストステージ

## ■充実した言語教育 [言語教育科目]

APUでは共通語として英語とともに日本語が使用され、さらにアジア太平洋地域の諸言語が日常的にとびかいます。「言語教育科目」においても、英語能力で入学した学生は日本語の授業を受ける、日本語で発表する、日本語で討論するといった能力を修得することを、初期ステージの目標とします。

## ■少人数クラスとピア・システムで学ぶ [演習科目/アジア太平洋地域理解]

1年生時から、大学ならではの少人数授業である「演習」が導入されます。国内の学生と留学生あわせて20人のクラスをさらに4人程度の小グループに編成し、プレゼンテーションと討論、さらに全体へのプレゼンテーションへと発展させます。この授業を通じてアジア太平洋地域の社会制度、文化、歴史、自然環境などについての理解を深めていくわけですが、出身国の違う学生同士が助け合い、教えあう中で、異文化間コミュニケーション能力も自然と身につけていきます。このシステムをAPUでは「ピア・システム」と呼んでいます。

# 2nd Stage •セカンドステージ

## ■フィールドワークの手法を少人数で学ぶ [演習科目/調査・研究入門]

2年生時の特徴的な授業として、<調査・研究入門>が想定されます。授業では、具体的なテーマについて少人数で発表や討論を行いながら、アンケートや詳細調査、インタビューなどの社会調査やフィールドワークの手法を身につけます。こうした授業を通じて、アジア太平洋地域の社会の実体を多面的に考察する能力を養いつつ、1年生での学習をさらに発展させていきます。

## ■専門教育の基礎となる科目群 [社会科学科目]

APUでは「アジア太平洋学」という新しい

学問の創出を目指しますが、その基盤となる学問分野に社会の諸現象を分析する「社会学」があります。2年生時には、この社会学の基礎分野について集中的に学ぶこととなります。<社会学><社会変動><社会調査法>といった基本的な内容から、<ジェンダー><市民ネットワーク>といった現代的なテーマまでが網羅される予定です。

## ■国際社会を解明する手法を学ぶ [国際社会学科目]

「社会学」の分野を発展させ、APUならではのアジア太平洋学へと展開する核となる分野が「国際社会学」です。この分野の授業も2年生時から3年生時にわたって履修します。テ



■ **アジア太平洋の多様性を学ぶ**  
[アジア太平洋地域理解科目]

アジア太平洋をフィールドとして学びを進めるために、初期ステージで「アジア太平洋と人権」「アジア太平洋の伝統と社会」「アジア太平洋の言語と文化」「アジア太平洋の生態」「アジア太平洋の歴史と現代」といったテーマを学びながらアジア太平洋の多様性を理解していきます。また「アジア太平洋の政治・経済」「アジア太平洋の産業」について理解を深めてアジア太平洋地域の発展を展望するためのテーマが設定されます。さらに「日本の社会システム」や「日本の文化と文学」といったテーマで日本についても理解を深めます。

マとしては、「国際社会学」といった概論的なものはもちろん、「多文化社会」「国際移動と文化変容」「エスニシティと国民国家」「異文化間コミュニケーション」といった興味深い内容が予定され、大学自体が「多文化環境」であるAPUだからこそ実現できる充実した講義や討論が活発におこなわれます。

■ **日本語の学習も本格化**  
[言語教育科目]

また2年生時には、日本語または英語の学習もいよいよ本格的になります。英語基準で入学した学生は日本語の授業を受ける、日本語で討論をする、日本語のレポートを作成するという能力を修得するとともに、「通訳英語」

■ **大学での学びの導入として**  
[基礎科目]

アジア太平洋学部では、社会学をはじめ、社会の諸現象を取り扱う社会科学の手法を導入して学んでいきます。そのため1年生時を中心に「現代と社会」「人間と科学」「学習技法」といった分野の基礎を学び、2年生以降の本格的な学習に備えることとなります。国際社会の理想的なあり方を学ぶ「社会と法」「現代の経済社会」「国際社会と平和」などのテーマのほかに、情報機器の基本的操作や、キャンパス内の情報基盤の活用能力を身につけるためのコンピュータ関連のテーマもこの「基礎科目」で学ぶことができます。

「ビジネス日本語」「メディア日本語」といった分野の日本語力についても磨いていきます。

■ **国内外留学もスタート**

日本以外の大学や研究機関などへの「短期留学」や、立命館大学への「日本国内留学」がスタートするのも2年生時です。みなさんの学習計画、将来設計にあわせてコーディネートしてください。また立命館大学の授業については、実際に京都ならびに滋賀県のキャンパスに日本国内留学して受講する方法のほかに、APUの「教室棟」に専用の教室を開設し、「遠隔授業」という形式で受講することも可能になるでしょう。

● **たとえばこんなテーマが…**  
〈学習の手法〉

大学での学習の基本的な手法をマスターするとともに、2～3年生時に行うフィールドワークや企業調査に備えるため、レポートの書き方、電話でのアポイントの取り方、依頼状やお礼状の書き方、インターネット使用時のエチケットやメールの書き方などを学びます。APUの授業で多数作成することになる日本語のレポートの書き方も修得します。

● **たとえばこんなテーマが…**  
〈アジア太平洋の伝統と社会〉

アジア太平洋の諸地域の社会が、近代化のプロセスの中でいかに変容したか、あるいは維持されてきたかを学びます。各国の伝統や文化について映像資料なども駆使し、また各国留学生の「生」の声なども参考に授業が進められます。

● **たとえばこんなテーマが…**  
〈メディア日本語〉

インターネットや衛星放送に代表される現在のメディアの特徴を理解しつつ、そこで多用される日本語の語彙や用例をマスターします。特に時事情報（ニュースなど）をテキストに取り上げ、国際社会の動きを日本語で迅速に理解する能力を育みます。

● **たとえばこんなテーマが…**  
〈エスニシティと国民国家〉

「エスニシティ」とは、言語、宗教など主に文化的な共通性をもつグループへの所属意識を指します。エスニック集団は少数民族、女性、障害者などの立場から、中央集権的な「国民国家」に権利を主張します。授業では、エスニシティに関する研究成果や世界各国の事例を紹介しながら、エスニシティの問題を抱えるアジア太平洋地域の国々の諸問題を理解していきます。



# 3rd Stage ●サードステージ

## ■APUならではの新しい学問分野

【アジア太平洋社会学科目】

2年生時までに学んだ「社会学」「国際社会学」をベースに、3年生時からは「アジア太平洋社会学」を学んでいきます。＜アジア太平洋の地域システム＞＜アジア太平洋ガバナンス＞＜海域ネットワーク＞＜欧米社会とアジア太平洋＞といったテーマを中心に展開しながら、アジア太平洋の社会を多面的に理解する能力と知識を養成していきます。

## ■3つの専門分野から各自のテーマを選択

【分野科目】

3年生時からは、「都市と環境」「アジア太平洋と観光」「情報メディア」の3分野から1つを選び、それぞれの分野に関連する専門科目群を中心に履修します。「都市と環境」分野では＜アジア太平洋の都市と農村＞＜アジア太平洋の環境＞＜環境政策＞といったテーマをはじめ、エコロジー重視の企業文化を目指す＜エコ・ビジネス＞といったユニークなテーマも学ぶことができます。「アジア太平洋と観光」分野でも、＜観光社会学＞＜観光政策＞＜観光開発と計画＞といった内容のほか、＜エコ・ツーリズム＞といった新しい観光事業を展望する授業も行われる予定です。また「情報メディア」分野では、＜現代の映像＞＜情報メディア＞＜情報ネットワーク＞など、情報化社会、メディア社会と呼ばれる現代社会を理解しつつ、アジア太平洋地域の情報化とメディア展開のあり方を考えるテーマを学習していくこととなります。

## ■国内外でフィールドワークを展開

【演習科目／リサーチプロジェクト】

1年生時の＜アジア太平洋地域理解＞、2年生時の＜調査・研究入門＞と続いてきた少人数制の演習授業が、3年生では＜リサーチプロジェクト＞というグループ研究に発展

します。この授業は、少人数のグループでプロジェクトを組み、アジア太平洋地域における社会、歴史、文化、都市、環境、観光、情報メディアなどに関する問題をテーマとして取り上げ、フィールドワークを行い、討論を重ねながら問題の背景や問題構造を明らかにし、さらに問題解決の方向性についても探っていきます。このプロジェクトは教室の中だけにとどまらず、国内外でフィールドワークを行ったり、様々な行政機関、国際機関、NGO（非政府組織）・NPO（非営利組織）、そして企業などとの共同プロジェクトに発展するケースやそれら機関でインターンシップ（実務研修）を行うケースも考えられます。また日本国外の協定大学のゼミ（小集団の演習授業）とディスカッションを行ったり、プロジェクトの結果をレポートとして世界に発信したり、問題に関連する行政機関や企業にプレゼンテーションしたりといったことも行われます。

### ●たとえばこんなテーマが…

#### ＜アジア太平洋ネットワーク＞

ボランティアやNGOなどでの交流を取り上げ、アジア太平洋地域においてこうした市民レベルのネットワークが国や企業の行動に対していかなる影響を与えているかを検討します。例えば環境問題に対するNGOの異議申し立てや、「世界先住民会議」などの国際的な連帯運動の動向なども紹介していくことになるでしょう。

#### ＜エコ・ビジネス＞

地球環境の危機が叫ばれる中、環境の保全と経済の発展の両立が重要課題となり、「環境産業」という新しい市場も発達してきました。研究開発・生産・流通・消費・廃棄までを一貫して統括するエコ・ビジネス理論について、具体的な企業の事例に基づきながら学びます。





# 4th Stage ● フォースステージ

## ■ 専門分野のさらなる追究

4年生は、学生生活のまとめの年です。「アジア太平洋社会学」の科目、そして3年生時に選択した「都市と環境」「アジア太平洋と観光」「情報メディア」のうちの1つの科目群の授業を中心に履修し、専門知識をさらに深めます。これまでのステージで学んだこと、日本国外での留学経験、そしてインターンシップで学んだ実践的な知識を総合し、「アジア太平洋学」の最終的な構築を進めてください。

## ■ 4年間の学びを集大成

### 【演習科目／卒業研究】

また4年生時は、卒業研究をまとめる大切な時期でもあります。＜卒業研究＞では、アジア太平洋地域の社会、歴史、文化、都市、環境、情報メディアなどに関する諸問題から各自がもっとも関心のあるテーマを選び、調査・研究を経て論文を作成し、その発表を行います。卒業研究は指導教員のもとで本格的な論文執筆に必要な技術・知識の指導を受け、また同じ演習テーマで学んできた仲間との積極的な討論も、卒業論文の内容をより豊かなものにしてくれるでしょう。

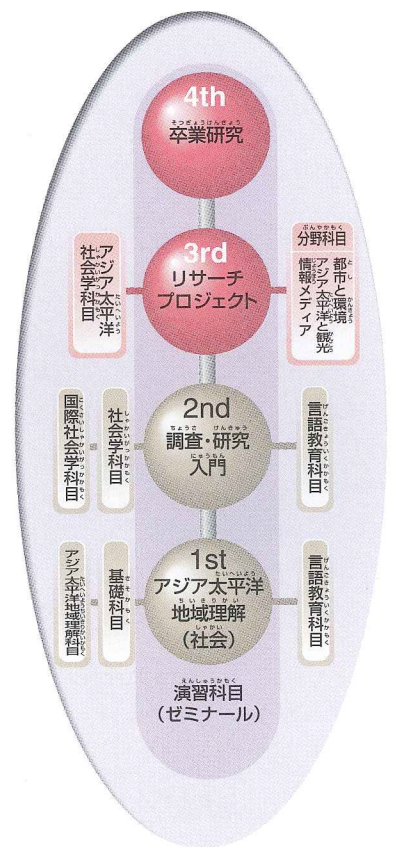
## ■ 卒業、そしてAPUから世界へ

卒業研究と同時進行で進めなければならないのが、進路・就職問題への取り組みです。進路・就職の問題については、APUでは1年生時から各自のキャリア形成の一環として考えていきますが、その取り組みを具体化し、APUで学んだことをいかせる仕事に就くのか、APUからさらに大学院に進学したり海外の大学院に留学したりするのか、選択を行うこととなります。

### ●たとえばこんな卒業研究が…

#### <アジア太平洋学部の卒業研究テーマ例>

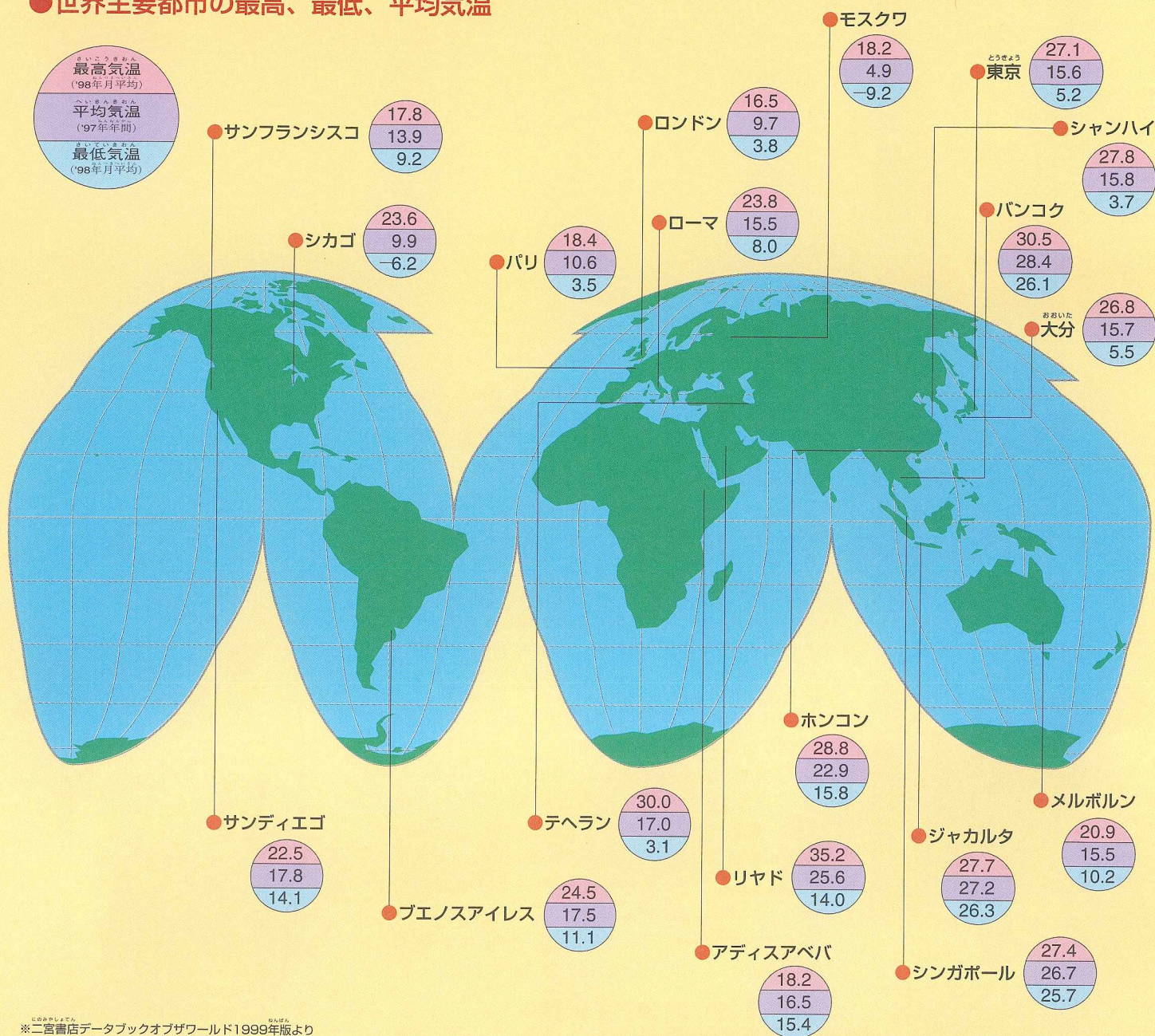
- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| アジア太平洋の地域システム    | ベトナムにおける開発と環境   |
| アジア太平洋地域における人権保障 | アジア太平洋の観光政策     |
| 東南アジアの言語と文化      | パラオの観光開発と計画     |
| 持続的発展と国際社会ネットワーク | アジア太平洋における放送政策  |
| エスニシティ関係と人の国際移動  | シンガポールの情報メディア戦略 |
| オーストラリアの多文化社会    |                 |
| アジア太平洋の地域ネットワーク  |                 |
| アジア太平洋における都市経営   |                 |
| 中国における環境ビジネス     |                 |





# WORLD DATA

## ●世界主要都市の最高、最低、平均気温



※二宮書店データブックオブザワールド1999年版より

## ●世界の通貨の対円レート ('99年5月15日現在)

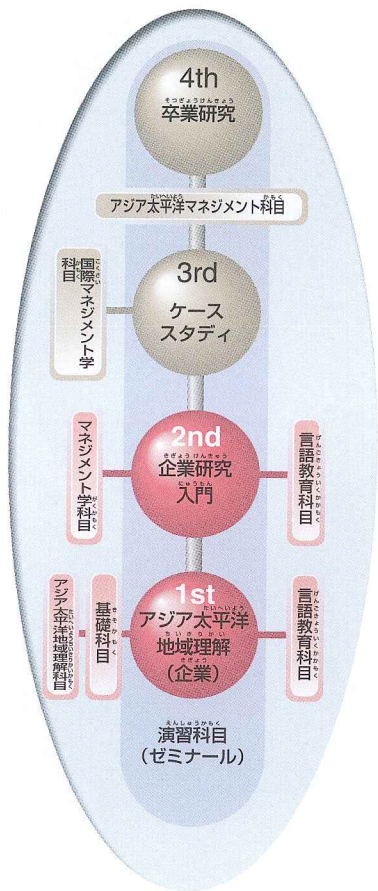
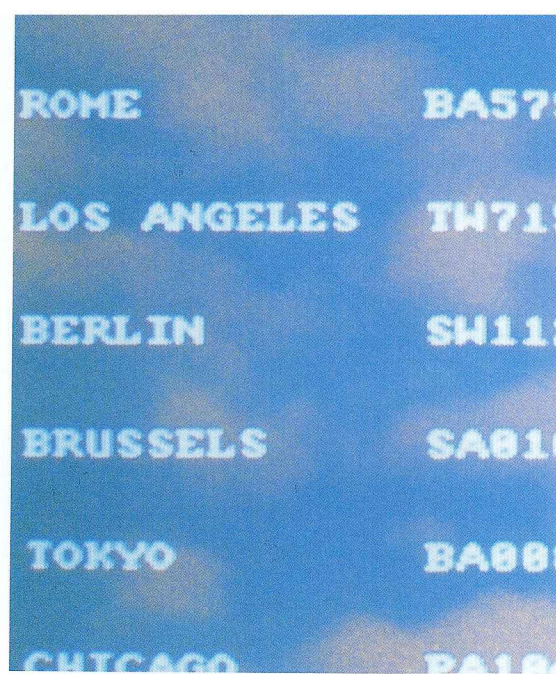
|             |           |               |          |
|-------------|-----------|---------------|----------|
| ●米ドル        | 122.95YEN | ●香港ドル         | 16.16YEN |
| ●ユーロ        | 131.55YEN | ●シンガポールドル     | 72.25YEN |
| ●カナダドル      | 85.32YEN  | ●中国元          | 15.43YEN |
| ●英ポンド       | 201.80YEN | ●タイバーツ        | 3.37YEN  |
| ●ドイツマルク     | 67.26YEN  | ●インドルピー       | 3.03YEN  |
| ●フランスフラン    | 20.06YEN  | ●インドネシア100ルピア | 1.69YEN  |
| ●豪ドル        | 83.77YEN  | ●フィリピンペソ      | 3.39YEN  |
| ●ニュージーランドドル | 70.69YEN  | ●韓国100ウォン     | 10.23YEN |
| ●イタリア100リラ  | 6.80YEN   | ●台湾ドル         | 3.72YEN  |







たいへいよう がくぶ  
**アジア太平洋マネジメント学部での  
 まな かた  
 学び方**



# 1st Stage ●ファーストステージ

## ■マルチリンガルへの第一歩 [言語教育科目]

アジア太平洋のさまざまな地域から学生が集い、多様な言語が飛び交うAPUは、言語教育にも力を注いでいきます。英語基準で入学した学生は、「言語教育」科目の導入となる初期ステージでは、日本語で授業を受け、日本語で発表し、日本語で討論できる能力を身につけることが目標です。

## ■少人数制の演習がスタート [演習科目/アジア太平洋地域理解]

アジア太平洋地域の産業や市場、生産ネットワーク、マーケティング、日本の経営などのテーマに関するテキストをもとに、グループごとのプレゼンテーションや、小グループでの討論、全体での討論などを進めるなかでアジア太平洋地域の企業マネジメントに対する関心と理解を深めます。出身地域がさまざまに異なる学生との活発な交流を通じて、異文化間コミュニケーションをはかる能力も飛躍的に高めることができます。

# 2nd Stage ●セカンドステージ

## ■専門科目のプログラムがはじまる [専門教育科目プログラム]

2年生になると、いよいよ本格的なマネジメントの学習がスタートします。＜国際金融＞＜アジア投資戦略＞といったファイナンスに関するテーマや＜財務管理＞＜国際比較会計＞など会計に関するテーマを中心として学ぶ「ファイナンスとアカウントティング」、＜生産管理＞＜日本の生産システム＞＜東アジアのロジスティクス＞などの生産と物流に関するテーマを中心に学ぶ「プロダクション」、＜消費者行動＞＜国際マーケティング＞＜アジアの市場＞などのマーケティングに関するテーマを中心に学ぶ「マーケティング」、＜人材開発＞＜国際人的資源＞

＜アジア太平洋の雇用関係＞などの人材マネジメントに関するテーマを中心に学ぶ「人材マネジメント」の4つのプログラムから、自分が一番関心があるものを選択して、それを中心に専門的な学習を進めていくことになります。

## ■企業研究入門で経営の実態を知る [演習科目/企業研究入門]

3年生時のケーススタディへの導入として、＜企業研究入門＞という演習科目を履修します。ここでは実際に企業が公開しているデータ・資料をもとに、企業の戦略や組織、開発、生産、販売活動、ファイナンスなどについて、マネジメントの視点から考察を加えます。少人数制のグループによる分析





■ **アジア太平洋地域を理解するために**  
 [アジア太平洋地域理解科目]

アジア太平洋における企業マネジメントを学ぶにあたっては、対象となるアジア太平洋とはどのような地域なのか、その全容の考察をすることが不可欠です。初期ステージでは、「アジア太平洋の多様性」「アジア太平洋の発展」「日本理解」をテーマに、アジア太平洋地域に関する多様な知識を修得します。諸地域の発展と相互依存、多様性と相互比較など、さまざまなテーマを学ぶなかで、アジア太平洋諸地域への理解が深まっていくことでしょう。また、アジア太平洋地域で活動する企業の特徴を扱ったものや、アジア太平洋に関する最新の情報をピックアップしたテーマなども設置される予定です。

作業や世界の仲間との討論を精力的に行うなかで、企業経営の実態を多面的に捉えることができる能力を育みます。

■ **日本語能力をブラッシュアップ**  
 [言語教育科目]

また2年生時には、日本語または英語の言語学習も本格的になります。英語基準で入学した学生は日本語で発表や討論をおこない、さらに日本語でレポートを作成するといった能力を修得する高度な学習が展開されます。また<通訳日本語><ビジネス日本語><メディア日本語>といった分野の学習も進められます。

■ **幅広い分野の知識を学ぶ**  
 [基礎科目]

さらに初期ステージでは、特に「現代と社会」「人間と科学」「学習技法」という3つの分野における基礎科目を学びます。パソコンの入門コースや<情報処理>といった、コンピュータ関連分野の教育もここで行われます。また21世紀の国際平和の課題について、政治、国際関係などの面から検討する<国際社会と平和>や、現代の国際社会で起こっている法的問題や人権問題の理解を深める<社会と法>などのテーマも学ぶことができます。アジア太平洋地域の幅広い分野の知識を身につけることにより、以降のステージにおける専門分野の学習の一層の進展をはかってください。

■ **国内外への留学制度も利用**

さらに2年生時からは、日本国外の大学や研究機関への長短期留学、および立命館大学への国内留学も可能になります。各自の学習計画や将来設計に応じて、留学制度を積極的に活用してください。立命館への留学については、実際に京都や滋賀のキャンパスに赴いて授業を受講する方法のほかにも、APUの<教室棟>に専用の教室を設置し、「遠隔講義」という形式で授業を受けることも可能になる予定です。

● **たとえばこんなテーマが…**

< **アジア太平洋の言語と文化** >

アジア太平洋地域の言語について、歴史、文化、政治、社会などとの関係を考察しながら学びます。アジア太平洋地域出身の留学生の「生の声」も交えた、APUならではの授業が期待されます。

< **アジア太平洋の産業** >

アジア太平洋地域の産業を考えると、日本や欧米の企業との関連は避けて通れない問題です。こうした国際企業が、地域の産業の発展にどのように関わっているのか、またどのような問題点があるのかを考察します。また各国の産業政策の移り変わりについても同時に学びます。

● **たとえばこんなテーマが…**

< **ビジネス取引と交渉** >

ビジネスレターや契約書の書き方といった基本的なことから、各国のビジネス慣習の違い、交渉相手の分析法、交渉の進め方、妥協点の模索といったことまで、具体的な事例を多数交えながら学んでいきます。海外でのビジネス経験が豊富な教員による講義が予想されるため、臨場感あふれる成功事例や苦労話といった「生の情報」が楽しみです。

< **ロジスティクス** >

消費者が求めるものを、必要な時に、必要とする場所で、必要なだけ供給するロジスティクス（物流）システムについて、原材料や半製品の調達、製造、流通、販売に至る流れの中で把握します。また理想のロジスティクスを実現する港湾、空港、道路などのシステムについても検討します。



# 3rd Stage ●サードステージ

## ■本格的な専門科目の展開

【マネジメント学】【国際マネジメント学】  
 2年生時に学んだ基礎をベースに、「マネジメント学」「国際マネジメント学」の両科目群の本格的な履修がはじまります。「マネジメント学」科目群には<企業経営>や<企業会計>などのベーシックなテーマから、<開発・生産システム><マーケティング・リサーチ><人材開発>といった現代経営の最前線のテーマを学習します。また「国際マネジメント学」科目群には、<国際経営><国際マーケティング><日本の経営>などのテーマが設定されており、国際的な視野から多角的に経営についての考察を深めます。それぞれの科目群には2年生時に選択したプログラムごとに、理想的な履修モデルが設定されていますので、それを参考にした上で関心のある分野を中心に系統的に学んでいってください。

## ■企業経営を多角的に考察する科目群

【アジア太平洋マネジメント科目】  
 また3年生時からは、アジア太平洋地域のマネジメントについて専門的に学ぶ「アジア太平洋マネジメント」科目群の学習が本格的にスタートします。<東南アジアの企業><西アジアの企業>などのアジア太平洋の各地域で活動する企業の特徴を学ぶものや、<アジアの投資戦略><アジアの経営理念><アジア太平洋における日本企業>といったアジア太平洋地域における企業経営の特徴や課題などを理解し、その本貌を多角的に考察していくことになります。

## ■マネジメントの現場を疑似体験

【演習科目/ケーススタディ】  
 1年生時の<アジア太平洋地域理解>、2年生時の<企業研究入門>と続いてきた少人数制の演習授業が、3年生時には<ケーススタディ>として発展します。この演習

では、事業戦略、ファイナンス、生産、マーケティング、人材マネジメントなど、企業経営の具体的な活動を取り上げて情報を収集し、活発な討論を通じて分析を加えるなかで問題点の発見と解決策を探っていきます。プロジェクトはキャンパスのなかだけでなく、日本国内外のビジネスの現場におけるフィールドワーク、またAPUのネットワークを活用して実際にビジネスを体験するインターンシップ、企業や調査会社との共同プロジェクトなどと連動することも考えられます。問題の解決策を講じるなかでは、マネジメントを行う経営者としての視点や判断力を養うことが期待されます。学習の成果はレポートとして世界へ発信したり、研究テーマに関連した企業へのプレゼンテーションなどで積極的に活かされるでしょう。

### ●たとえばこんなテーマが…

#### <アジア太平洋における外国企業>

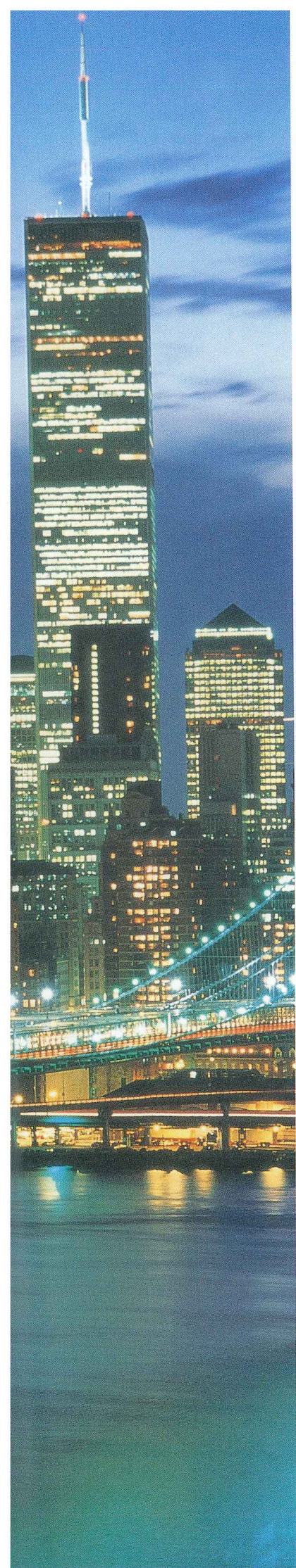
アジア太平洋地域で活動する外国企業の経営行動が主なテーマ。各地域の市場調査や投資判断や取引関係、外国とその国の雇用慣習の違い、現地に派遣された外国人スタッフの教育、現地採用スタッフの教育など、多様なテーマで国際化した外国企業のマネジメントのあり方を検討します。

#### <製品開発戦略>

国内外の競争激化に対応する新製品の開発過程について、コンセプト開発、製品開発、市場テストといったプロセスを追いながら解説。具体的なヒット商品の開発事例などもふんだんに紹介されます。







# 4th Stage ●フォースステージ

## ■専門の学習をさらに深める

4年生は、学習生活のまとめの年になります。「マネジメント学」「国際マネジメント学」「アジア太平洋マネジメント」の科目群から、各自が選択しているプログラムの履修プランなどを参考に授業を履修し、専門知識をさらに深めます。これまでのステージで学んだこと、日本国外での留学経験、またインターンシップで学んだ実践的な知識などを総動員し、アジア太平洋マネジメントの学習を最終段階へと高めます。

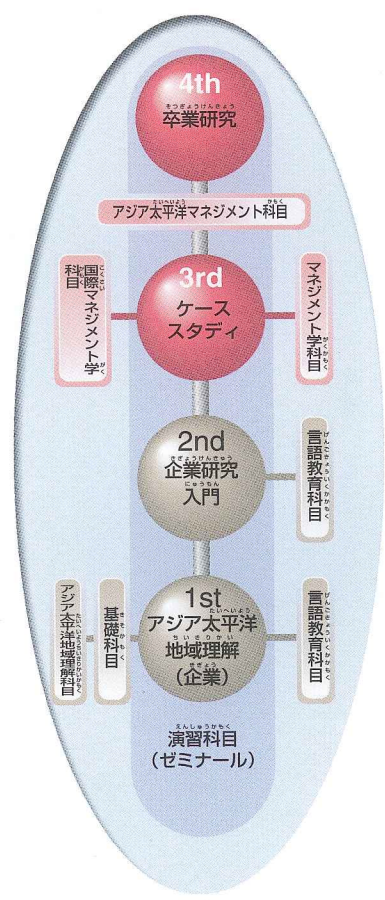
## ■学びの集大成・卒業研究を作成

[演習科目/卒業研究]

また4年生の1年間は、これまでの学習の成果の集大成となる大切な期間です。＜卒業研究＞では、企業の事業戦略、ファイナンスや会計、生産やマーケティング上の課題、人材マネジメントなどからもっとも関心のあるテーマを選択し、論文の作成と発表を行います。指導教員のもとで、本格的な論文を執筆するために必要な技術や知識の指導を受け、また演習の仲間との活発な討論などを通じて、充実した研究を進めてください。

## ■世界へ羽ばたいていくAPUの卒業生

こうした卒業研究と並行して進めていかなければならないのが、進路・就職問題への取り組みです。APUでは1年生時から各自のキャリア形成の一環として、進路・就職を考えるサポートシステムを用意していますが、そうしたなかで計画してきたキャリアプランを国内外のビジネスの現場で実現していくのか、あるいは大学院へ進学して研究を続けていくのかといった選択をすることになります。APUで過ごした4年間を通じて、みなさんは大きく成長していることでしょう。学びの成果をいかし、世界へと羽ばたいていくください。APUからの進路は無限に広がっています。



### ●たとえばこんな卒業研究が...

#### <アジア太平洋マネジメント学部の卒業研究テーマ例>

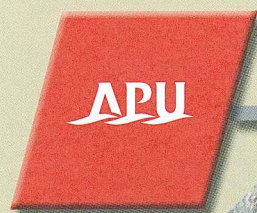
|                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| APEC共通通貨とユーロ市場    | 21世紀の日本的生産システム     |
| アジア投資戦略と地域発展      | 国際産業の展開とアジア太平洋     |
| 国際金融とアジア市場        | 東アジアの国際貿易と国際物流     |
| アジアにおける国際会計基準     | アジア企業の製品開発戦略       |
| グローバル企業の国際マーケティング | 西に広がるアジア-イスラム経済の発展 |
| 日・中・韓企業の比較経営      | アジア太平洋の中小企業と人材開発   |
| ASEAN (東南アジア諸国連合) | 国際企業の人材マネジメント      |
| 自動車産業の競争と発展       | アジアの経営理念           |



# APUからの進路・就職

## APUから広がる無限の可能性。

●想定される進路・就職の方向性



アジア太平洋学部

●専門職分野  
都市計画・環境・観光・情報などの分野のシンクタンク

●マスコミ分野  
放送・映像・新聞・出版・情報メディア・情報サービス企業

●国際ジャーナリスト

●大学院進学

●各種研究機関

●国際ビジネス分野  
都市開発企業  
環境ビジネス企業  
環境コンサルタント  
観光関連産業

ホテル  
各国の航空会社  
旅行業  
リゾート開発企業

その他アジア太平洋ならびに国際規模で活動する国際企業の、営業企画・開発企画などの企画部門

●政府系国際機関分野  
国際協力・貿易・観光などの分野の国際機関職員

●非政府組織・非営利組織  
NGO・NPOなどのスタッフ

アジア太平洋  
マネジメント学部

●専門職分野  
公認会計士・アメリカなど海外のCPA・税理士・証券アナリストなどマーケティング・プロダクション・ファイナンス・アカウンティング・人材マネジメント分野などのコンサルタント

●大学院進学

●各種研究機関

●国際ビジネス分野  
貿易会社  
メーカー  
流通業  
商社  
サービス業  
金融機関  
人材開発企業  
ベンチャー

その他アジア太平洋ならびに国際規模で活躍する国際企業の、営業企画・開発企画などの企画部門、マーケティング部門、財務部門

# Employment



# 進路・就職のフィールドは世界へ。

## ●APUが描く進路イメージ

APUで学び、日本国内外への留学や各種団体・企業でのインターンシップを経験しながら高度な言語運用能力、広範な専門知識、そして豊富な国際体験・社会体験を身につけたみなさんは、いよいよその成果を携えて社会へと巣立つことになります。進路・就職問題を考えるにあたって、APUが描いている<APU卒業生>のイメージは次のようになります。

- 1) 異文化間コミュニケーション能力と感受性を身につけた人材
- 2) 国際社会で活躍するための専門知識、調査・分析能力、政策立案能力などの専門能力と実践能力を持つ人材

さらに、こうした基本的な資質に加えて、各学部での専門教育によって、次のような特性が付加されることになります。

### ■アジア太平洋学部

アジア太平洋地域の多様性を理解し、そこで起きているさまざまな経済的・社会的問題を解決していくリーダーとしての資質

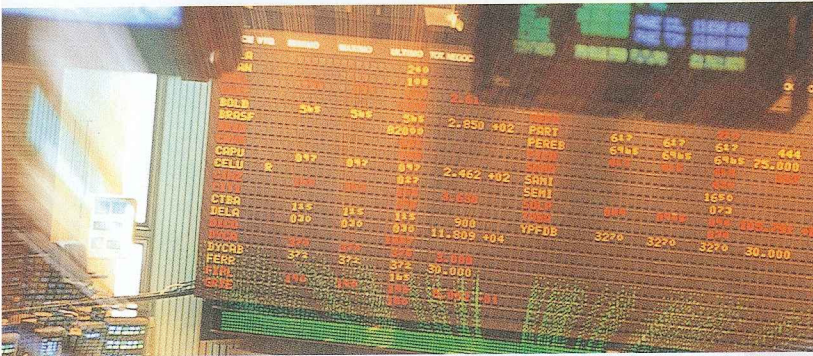
### ■アジア太平洋マネジメント学部

国境を越えたマネジメント能力・スキルを有し、国際ビジネスで活躍できるプロフェッショナルとしての資質

このように、国際人として様々な舞台で活躍できるフレキシブルな能力と、各学部での教育やみなさんの主体的な研究活動によって得られた専門知識をいかし、APUから多様な分野へと進出していくことが可能になると考えられます。

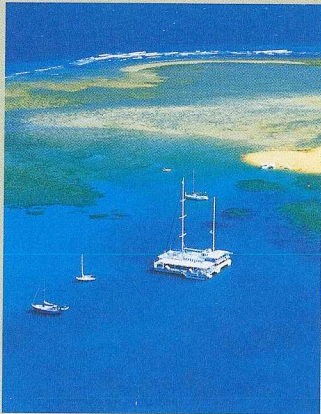
### ■アドバイザー・コミッティも就職を支援

アドバイザー・コミッティとは、APUで学ぶ学生のみなさんに大きな期待を寄せ、APU開学前から多方面にわたって支援をいただいている組織です。1996年5月に設立され、留学生への奨学金や特別講義、インターンシップの受け入れ、そして就職活動の支援など、さまざまな形でAPUをバックアップするものです。



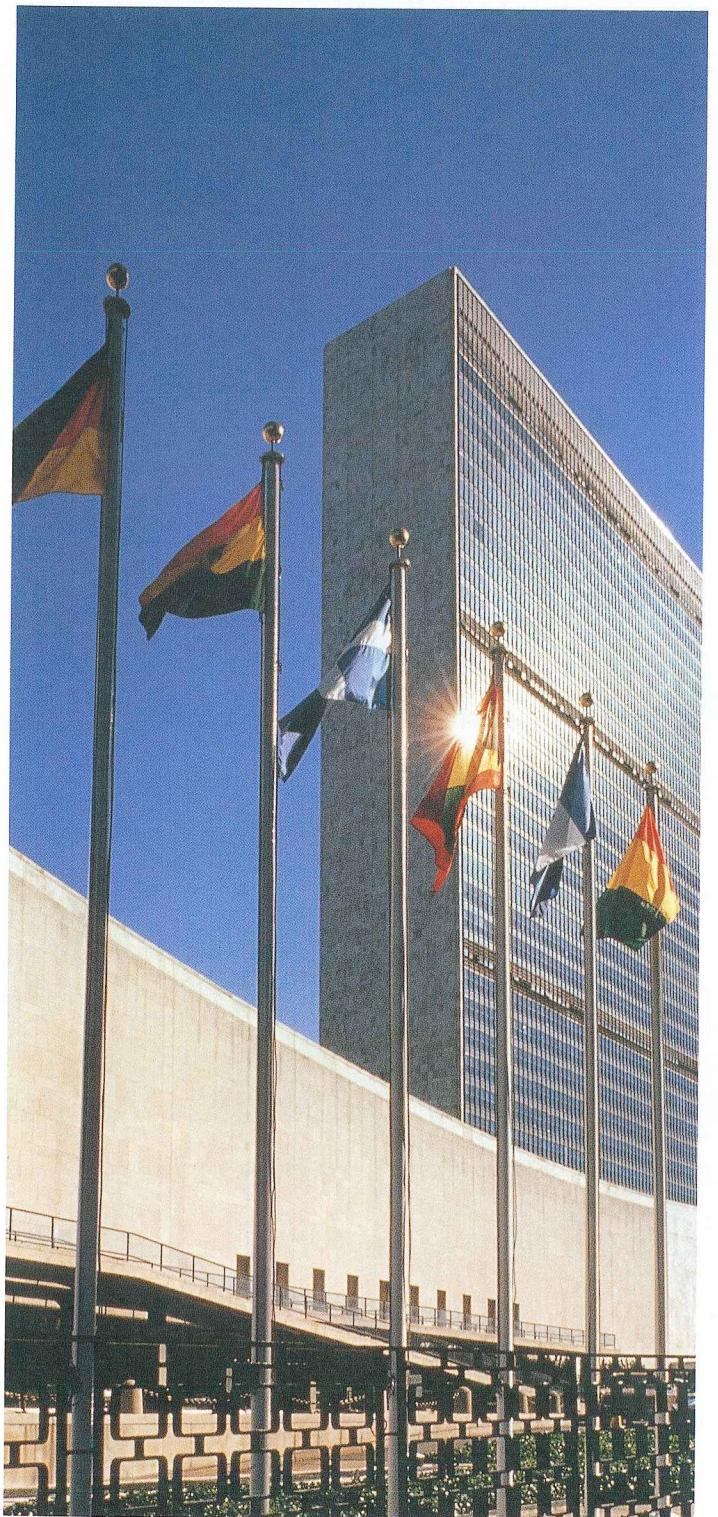


たいへいよう みらい そうぞう  
アジア太平洋の未来を創造するリーダー



たいへいようがくぶ  
アジア太平洋学部  
College of Asia-Pacific Studies

アジア太平洋学部からの進路として、観光などのホスピタリティー・ビジネス、情報メディア産業や、あるいは21世紀の国際社会の担い手としてその役割が期待されるNGO（非政府組織）、NPO（非営利組織）などが予想されます。APUではそれぞれの進路希望に即した低回生時からのキャリア形成支援を行います。また3年生時からの専門科目群の選択によって、右のような具体的な進路が予想されます。





# として、多様な分野へ進出の可能性が。

## ●都市と環境分野

アジア太平洋学部の専門科目のうち、おもに「都市と環境」に関連する分野を学んだみなさんは、21世紀のアジア太平洋地域の発展を支える「都市開発」ならびにアジア太平洋地域が抱えることになるであろう最大の課題のひとつである「環境問題」に関連する分野での活躍が予想されます。とりわけて環境問題については、あらゆる業種において対応が急務となっており、環境問題に精通した人材が強く求められています。

## ●アジア太平洋と観光分野

21世紀においては、アジア太平洋地域に世界中の観光ニーズが集中すると予想されています。アジア太平洋の自然環境や伝統文化・芸術などとの共存が可能な観光産業を確立していくことが必要です。おもに「アジア太平洋と観光」に関連した専門科目を学んだみなさんには、新しいアジア太平洋の観光事業をリードする人材としての活躍が期待できます。正課の授業に加えて、エクステンション講座では「旅行業取扱主任者」の資格取得のためのプログラムも展開する予定です。

## ●情報メディア分野

現在、地球規模での情報化社会が進み、あらゆる業種において情報関連分野に精通した人材が求められています。おもに「情報メディア」に関連した専門科目を学んだみなさんには、アジア太平洋地域をベースに世界で活躍するジャーナリスト、放送や映像分野のプロフェッショナル、そして情報メディア産業のスペシャリストとしての道がひらけています。

## ●大学院進学や研究者としての進路

アジア太平洋学部で学んだ成果をさらに発展させるべく、国内外の大学院に進学したり、世界各国の研究機関の研究員になる進路もあります。APUと協定関係のある大学や研究機関などに在学中に留学するなどの方法で、各自に最適の進路を発見してください。

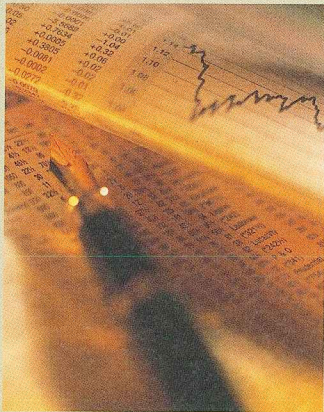
### 予想される代表的な進路・就職先

- ◎国際的な建設業界などでの「都市計画プランナー」
- ◎あらゆる企業での「環境部門」で働くスペシャリスト
- ◎環境関連産業での「環境コンサルタント」
- ◎環境問題を扱うNGO・NPOのスタッフ
- ◎国際機関、政府、自治体の環境問題セクション
- ◎環境ジャーナリスト
- ◎各国政府の観光セクション
- ◎各国の航空会社
- ◎旅行代理店
- ◎その他あらゆる観光関連産業
- ◎ホテルやテーマパークをはじめとしたホスピタリティ産業全般
- ◎国際機関、政府、自治体、NGO・NPOなどの報道担当セクション
- ◎国際ジャーナリズム分野
- ◎放送、映像、新聞、出版などのマスコミ産業
- ◎情報サービス・情報メディア産業



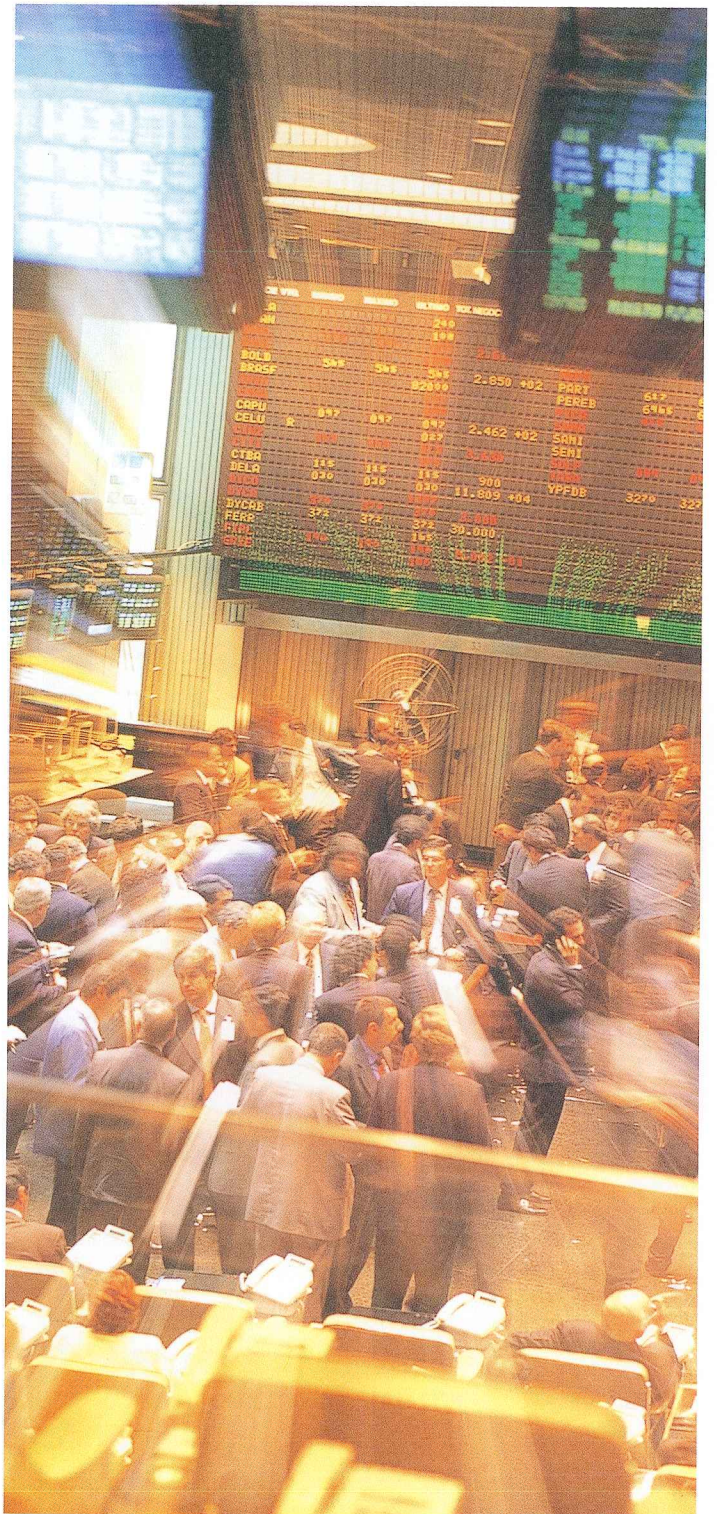


# がくぶ まな こうど せんもんせい 学部で学んだ高度な専門性をいかしつつ、



## たいへいよう がくぶ アジア太平洋マネジメント学部 College of Asia-Pacific Management

アジア太平洋マネジメント学部からの進路は、「ファイナンスとアカウントティング」「プロダクション」「マーケティング」「人材マネジメント」という4分野のうち、学生のみなさんがどの分野を重点的に学んだかによって決定されると考えられます。これら専門分野に応じた各企業のセクションに就職するケースのほか、専門職の試験などにチャレンジする人もいます。APUでは4年間の学びの成果が最大限にいかされるよう、低回生時からキャリア開発プログラム、難関試験突破のためのエクステンション講座の実施などでみなさんを全面的にバックアップします。





# 国際的スペシャリストとして活躍を。

## ● ファイナンスとアカウンティング分野

金融ならびに会計の専門知識に加えて、APUならではの異文化間コミュニケーション能力と多彩な国際体験を身につけたみなさんは、ますますグローバル化の一途をたどる国際金融業界において大いに力を発揮できるでしょう。

## ● プロダクション分野

この分野を中心に専門科目を履修したみなさんには、製造業など様々な製品を生産する企業での活躍が予想されます。海外に生産拠点をもち日本企業、あるいはアジア太平洋地域で活動する多国籍企業などを目標にキャリア開発に励んでください。

## ● マーケティング分野

マーケティング分野の専門科目を履修することによって、21世紀の国際競争時代を生き抜くために必要な、戦略的かつ創造的な能力を身につけることができます。このような能力は、国際社会において活動するあらゆる企業で強く求められています。

## ● 人材マネジメント分野

企業の国際化が進展するなかで、人材開発、労務管理、人事業務においても国際的なセンスと異文化間コミュニケーション能力が不可欠となってきています。この分野の専門科目を中心に学んだみなさんは、21世紀の企業活動の核となる「人材の開発とマネジメント」を担当するプロフェッショナルとしての活躍が期待されます。

## ● 大学院進学や研究者としての進路

一般の企業に就職するケースのほかに、国内外の大学院に進学したり、世界各国の研究機関の研究員になる進路もあります。大学院進学後に公認会計士や税理士の資格を取得するケースもあるでしょう。

### 予想される代表的な進路・就職先

◎公認会計士（日本、米国、その他）などの職業会計人

◎証券アナリスト(CFA)、エコノミスト

◎銀行、証券、生保をはじめとする各種金融機関

◎企業の財務・経理、経営企画部門

◎製造業（メーカー）全般

◎コンサルティング会社の製造関連スペシャリスト

◎企業の経営企画部門

◎企業のマーケティング部門、調査部門

◎貿易会社のマーケティングスペシャリスト

◎コンサルティング会社のマーケティング関連スペシャリスト

◎企業の人材開発、労務管理、人事部門

◎人材開発コンサルタント

◎コンサルティング会社のスペシャリスト





# にほん たいへいようちいき むす 日本とアジア太平洋地域を結ぶ、 かつかい しえん 各界リーダーによる支援ネットワーク。

アドバイザー・コミッティは、立命館アジア太平洋大学（APU）を支援する組織として、1996年5月に設立されました。メンバーは世界各国の元首、大使をはじめ、日本を代表する企業のトップの方々などによって構成されており、さまざまな形でAPUへのご支援をいただいています。またアドバイザー・コミッティは、APUの卒業生の就職活動においても大きな支えとなることが期待されています。メンバーは1999年4月1日現在、名誉委員11名、インターナショナル委員5名、アンバサダーメンバー33名、代表世話人3名、世話人5名、委員187名の合計244名の方々によって構成されています。

## ●初代名誉委員



(社)経済団体連合会 名誉会長  
東京電力株式会社 相談役  
平岩 外四

## 21世紀をアジア太平洋の世紀に。 立命館アジア太平洋大学に期待します。

私たちは21世紀をアジア太平洋の世紀にしたいという強い願いを持っております。大きく変わる世界の中で、最も希望に満ちた地域はこのアジア太平洋であります。この地域は豊かな資源と自然環境に恵まれ、未だ発掘されていない優れた人材を含め、潜在能力の宝庫であります。経済の発展段階では欧米諸国に比べて若い地域ですが、それだけに大きな可能性を持ち、同時にこれらの地域の人々は最先端の教育を必要としております。

このような中で開学する立命館アジア太平洋大学の構想は非常に壮大であり、みなさまの期待に応えられるものと思っております。創造性と人間性を重んじる教育を推進する未来志向の大学の成功を心よりお祈りします。

## ●名誉委員



アサヒビール株式会社 名誉会長  
(社)経済団体連合会 副会長  
樋口 廣太郎

## わが国の国際貢献の一翼を担う、 立命館アジア太平洋大学。

立命館アジア太平洋大学は、世界の50カ国から留学生を迎え、わが国の国際貢献の一端になう事業と云ってよい構想です。この事業のために、立命館に大分県や別府市という地方自治体が協力し、また私たち民間企業が支援していくという形態がとられていることにも積極的な意義があります。

今回のアドバイザー・コミッティには、各界の多くの方からご参加をいただいております。豊かな陣容が整ってまいりました。アドバイザー・コミッティは新大学の開設に向けて、キャンパスの建設、留学生の募集、スカラシップをはじめとする課題への助言と協力を積極的に進めていく所存です。



## 21世紀の世界の発展をリードする、 活力と魅力にあふれたアジア太平洋。

私は経団連ミッションで、ASEAN諸国、中国、韓国、インドなどを訪れ、各国の首脳や民間の指導者と意見交換する多くの機会がありましたが、そのたびにこの地域のダイナミズムを肌で感じました。

なかでも特に強く感じていることは、この地域のさらなる発展のためには「人材の育成」がなによりも大切だということです。そして、そのためのお手伝いをするのが、21世紀における日本の果たすべき役割のひとつであると思います。

立命館アジア太平洋大学でともに学んだ世界の若者が、それぞれの国・地域の発展を担い、さらには世界の繁栄のために活躍されることを期待しています。



(社) 経済団体連合会 名誉会長  
トヨタ自動車株式会社 取締役会長  
豊田 章一郎

## 世界の経済・文化の担い手として 活躍できる人材の育成を。

現在、21世紀を目前にして経済のグローバル化が一層進展する中で、日本企業及び日本人のさらなる国際化も求められています。こういった情勢のもとで日本は、アジア太平洋地域との人的交流をもっと盛んにし、相互理解の促進を図る必要があると存じます。経団連でも、1988年「国際文化交流委員会」を設置し、ASEAN諸国との人的交流を中心とするプロジェクトを通じた「顔の見える文化交流」を行ってきました。

このように、私も目指してきたものと立命館アジア太平洋大学は一致するものと考えています。立命館アジア太平洋大学が、世界の経済・文化の担い手として活躍する青年を輩出されることを願ってやみません。



(社) 経済団体連合会 会長  
新日本製鐵株式会社 代表取締役会長  
今井 敬

## アジア太平洋の潜在能力を引き出す、 新しい人材の発掘と育成を。

アジア太平洋地域には、これまで人類の歴史を飾った数々の優れた文明の蓄積があります。加えて、自然環境や資源、そして人的資源にも恵まれたアジア太平洋地域は、どの角度からみても計り知れない潜在能力を擁しております。これらの潜在能力を引き出すことができれば、この地域は21世紀にさらに大きな発展を示し、世界の繁栄に大きく貢献することができるでしょう。

そして、そのために何より大切なのが、有為な人材の発掘と養成であります。立命館アジア太平洋大学は、まさにこのような課題に積極的に応える大学になることでしょう。この大学に学ぶみなさんが、国境を超え、グローバルな視野で考え、行動されることを大いに期待します。



住友生命保険相互会社 名誉会長  
あら い まさ あき  
新井 正明



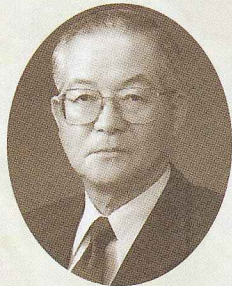


(社) 関西経済連合会 会長  
住友金属工業株式会社 相談役名誉会長  
新宮 康男

## 自立と連携の時代のフロンティア、 立命館アジア太平洋大学に期待する。

私は、関西経済連合会の会長就任当時から、行動基準を「実行・自立・連携」において事業に取り組んでいます。2000年に開学する立命館アジア太平洋大学は、この考え方を教育分野で具現化されたものであると私は考えています。地方自治体である大分県ならびに別府市と、私学・立命館が構想されたこの新しい大学が、日本の、そしてアジア太平洋地域の経済界・国際機関等の広範な支援をえて開設準備をすすめておられることは、21世紀の新しいモデルと言えるでしょう。

関西経済界もアジア太平洋地域との交流を深める事業に取り組んでおりますが、九州と関西が日本におけるその二大拠点として発展することを切望しております。



(社) 九州・山口経済連合会 会長  
九州電力株式会社 取締役会長  
大野 茂

## 九州からアジアへ、そして世界へ、 立命館アジア太平洋大学から飛躍を。

九州はその地理的条件から古来よりアジアの玄関口としての役割を担ってきました。このような歴史的経緯をふまえ、私は、九州がアジアの一員として独自の経済圏を形勢しつつ、日本とアジア諸国との交流拠点を目指すことが今後の九州のとるべき方向であると考えています。そのための課題のひとつが、さまざまな意味での国際交流基盤を形成することであり、人材育成はその大きな柱になると考えています。

こうした課題の解決に大いに貢献するであろう立命館アジア太平洋大学で学んだ世界の若者が、九州そして日本を第二の故郷として世界に飛躍され、世界の繁栄と平和のために貢献されることを期待しております。



株式会社さくら銀行 常任顧問  
末松 謙一

## グローバルスタンダード時代にふさわしい 真の国際人の育成を。

昨今、私立大学を中心として大学改革が盛んに行われていますが、その中でも先進的改革に積極的に取り組んでおられる大学のひとつが立命館ではないかと思えます。

留学生と日本人学生が各半数という構成の新大学は、21世紀の教育モデルのひとつと言えるのではないのでしょうか。これからの大学では、国際的に通用する質こそが問われなければなりません。世界に通用する人材の育成を目指す立命館アジア太平洋大学は、目的意識のはっきりした学生が多様な価値観のなかで揉まれながら自己を確立し、優れた能力と豊かな個性を大きく花開かせる場所となるでしょう。世界を視野に未来を描く真の国際人の誕生を楽しみにしています。



●名誉委員

- ジャン・クレティエン カナダ首相
バルディン・ユスフ・ハビビ インドネシア共和国大統領
ダトセリ Dr.マハティール・モハマッド マレーシア国首相
ナギン・パガバンディ モンゴル国大統領
アンドレアス・ファン・アフト 元オランダ王国首相
アルベルトフジモリ F. ペルー共和国大統領
フィデル・V・ラモス 前フィリピン共和国大統領
チュアン・リークバイ タイ王国首相
ゲン・ティ・ビン ベトナム社会主義共和国国家副主席
竹下 登 元内閣総理大臣・衆議院議員
樋口廣太郎 アサヒビール名誉会長、経済団体連合会副会長

●インターナショナル委員

- 注 道海 海峡兩岸関係協会会長、元上海市長
ウィスパー・ルイス アセアン財団事務局長
前駐日インドネシア共和国特命全権大使
ハッサン・ビン・タラール ジョルダン・ハシェミット王国王子
アルフォンソ T. ユーチェンコ ユーチェンコ・グループ会長
前駐日フィリピン共和国特命全権大使
鄭 夢暉 国際サッカー連盟副会長、現代重工元顧問

●アンバサダーメンバー

- ホセ・ラモン・サンチス・ムニョス 前駐日アルゼンチン共和国特命全権大使
ピーター・C・グレー 駐日オーストラリア特命全権大使
S・M・ラシッド・アーメッド 前駐日バングラデシュ人民共和国特命全権大使
フェルナンドギマラエンス・ヘイス 駐日ブラジル連邦共和国特命全権大使
トゥロン・メアリ 前駐日カンボジア王国特命全権大使
レナード・J・エドワーズ 駐日カナダ特命全権大使
オスカル・アフェンテス 駐日チリ共和国特命全権大使
陳 健 駐日中華人民共和国特命全権大使
マハディ・アメッド・ガディド 駐日エチオピア連邦民主共和国特命全権大使
イリアス・カツァレアス 駐日ギリシャ共和国特命全権大使
シッダールタ・シン 駐日インド共和国特命全権大使
スマディ D.M. ムノルジョノ・プロトディニラット 駐日インドネシア共和国特命全権大使
ファルク・カスラウィ 駐日ジョルダン・ハシェミット王国特命全権大使
トンサイ・ボーディサン 駐日ラオス人民民主共和国特命全権大使
タン・スリ・カティパ 駐日マレーシア特命全権大使
マヌエル・ウリベ・カスターニェダ 駐日メキシコ合衆国特命全権大使
S・フレルバートル 駐日モンゴル国特命全権大使
ウ・ソウ・ウイン 前駐日ミャンマー連邦特命全権大使
ケダール・バクタ・マテマ 駐日ネパール王国特命全権大使
ニール・ウォルター 駐日ニュージーランド特命全権大使
モハメド・アリ・アルフセイビ 駐日オマーン国特命全権大使
アイワ・オルミ 駐日バブア・ニューギニア特命全権大使
ビクトル・アリトミ 駐日ペルー共和国特命全権大使
金爽圭 駐日大韓民国特命全権大使
エウゼン・ディジャレスク 駐日ルーマニア特命全権大使
アレクサンドル N. パノフ 駐日ロシア連邦特命全権大使
チュウ・タイ・スー 駐日シンガポール共和国特命全権大使
グナヴァヴェダラゲ・ウィジャヤシリ 駐日リビア民主主義共和国特命全権大使
シャフツ・アックユック 前駐日タイ王国特命全権大使
サー・デイビッド・ライト 駐日グレートブリテンおよび北アイルランド連合王国特命全権大使
トーマス・S・フォーリー 駐日アメリカ合衆国特命全権大使
アリエル・シャイホフ 駐日ウズベキスタン共和国特命全権大使
ゲン・クオック・ズン 駐日ベトナム社会主義共和国特命全権大使

●代表世話人

- 平松 守彦 大分県知事
井上 信彦 別府市長
長田 豊臣 立命館総長

●世話人

- 豊田章一郎 トヨタ自動車会長、経済団体連合会名誉会長
末松 謙一 さくら銀行常任顧問
西島 安則 京都市立芸術大学学長、元京都大学総長
佐藤研一郎 ローム社長
河原 四郎 大同生命保険相談役

●委員 (50音順)

- 赤澤 瑠一 機械産業記念事業財団顧問
日本・南太平洋経済交流協会会長、太平洋学会会長
元日本貿易振興会理事
前国際連合人道問題担当事務次長
明石 康 石原産業社長
秋沢 豊 住友商事相談役
秋山 富一 東北電力会長、東北経済連合会会長
安部 浩平 中部電力会長、中部経済連合会会長
新井 正明 住友生命保険名誉会長
荒巻 恭士 きんでん会長
安西 邦夫 東京ガス社長
安藤 百福 日清食品会長
飯塚 真文 TKC社長
井植 敏 三洋電機会長
五十嵐 力 栗本鐵工所相談役
池坊 専永 禅道家元四十五世、池坊華道会理事
磯邊 律男 博報堂会長
井手 正敏 西日本旅客鉄道会長
伊藤 助成 日本生命保険会長、経済団体連合会副会長
稲三 輝二 INAX会長
福原 興作 石川島播磨重工業会長
福村 一弘 三井建設社長
井上 礼之 ダイキン工業社長
井口 武雄 三井海上火災保険社長
今井 敬 新日本製鐵会長、経済団体連合会会長
牛尾 治朗 ウシオ電機会長、経済同友会代表幹事
宇野 收 東洋紡績名誉顧問
梅田 貞夫 鹿島建設社長
梅田 善司 川崎重工相談役
枝村 純郎 住友商事顧問、大和総研顧問、元ロシア連邦特命全権大使
元駐インドネシア共和国特命全権大使
元ソニー会長、経済団体連合会副会長
元駐米大使、外務省顧問、国際協力推進協会理事
国際農業者交流協会会長、世界平和研究所理事長、日本協会会長
王予製紙社長
宇田隆光 宇田隆光事業顧問、前科学技術会議議員、元科学技術事務次官
大友 英雄 アメリカンファミリー生命保険在日代表・会長
大澤 弘 大阪ガス相談役
大竹 美喜 富士写真フイルム会長
大西 正文 同和火災海上保険会長
大西 實 コスモ石油社長
岡崎 真雄 弁護士、元検事総長
岡部敬一郎 東邦ガス会長
岡村 泰孝 積水ハウス会長
小川 進 住友重機械工業会長
奥井 三敏 住友海上火災保険会長
小澤 三敏 国際交流基金顧問、国際開発高等教育機構理事長
小野田隆 元駐小松人民共和国特命全権大使、元駐\* (注)駐特命全権大使
鹿取 泰衛 小松製作所相談役
河合 良一 住友電気工業会長
川上 哲郎 三共社長
川村 善典 昭和電工相談役
岸本 泰延 三菱電機相談役
北岡 隆俊 大日本印刷社長
北島 義俊 新国立劇場運営財団理事長、元文部事務次官
木田 宏 日産自動車相談役
京塚 光司 N T Tデータ顧問、元駐中華人民共和国特命全権大使
金馬 昭昭 京阪電気鉄道社長
國廣 道彦 N T Tデータ顧問、元駐中華人民共和国特命全権大使
久米 豊 元日産自動車相談役
河野 俊二 東京海上火災保険会長、日本経営者団体連盟副会長
一季 鴻池組社長
後藤 康男 安田火災海上保険名誉会長
小長 啓一 アラビヤ石油社長、元通産事務次官、日本経営者団体連盟副会長
小林 公平 阪急電鉄会長
小林庄一郎 関西電力相談役
小林陽太郎 関西ゼロックス会長、経済同友会副代表幹事
小山 榮一 富西電力相談役
近藤 晃 日本航空相談役
齋藤 興二 岩谷産業会長
坂田 浩一 日本テレコム会長
坂田耕四郎 三井生命保険会長
櫻井 卓 日鉱金属社長
櫻井 孝順 第一生命保険会長
佐藤 文夫 東芝会長
佐野 一夫 小野薬品工業会長
澤田 茂生 日本電信電話会長
椎名 武雄 日本アイ・ビー・エム会長、経済同友会副代表幹事
塩野 芳彦 塩野義製薬社長
篠崎 昭彦 住友金属鉱山相談役
柴田 寛二 山下設計社長
寺岡 武雄 日本ビクター社長
新宮 康男 住友金属工業相談役名誉会長、関西経済連合会会長
杉浦 尚也 全日本空輸常勤顧問
杉田 利夫 第一勧業銀行頭取
杉木 正 第一製薬社長
鈴木 敏文 イトーヨーカ堂社長、経済団体連合会副会長
鈴木 信夫 九善社長
鈴木 治雄 昭和電工名誉会長
関本 忠弘 日本電気相談役
千 宗室 茶道裏千家家元
高橋 靖 大日精化工業社長
高原慶一郎 ユニ・チャーム社長

- 武内 伸允 東洋信託銀行会長
田嶋 英雄 ミノルタ会長
田代 和 近畿日本鉄道社長、大阪商工会議所会頭
多田 公照 中国電力会長、中国経済連合会会長
巽 外夫 住友銀行相談役
立元 正一 住友大阪セメント会長
田中 益夫 関西ペイント相談役
田中 義巳 ニチメン会長
谷村 隆 ジェーシービー相談役
垂水 公正 元アジア開発銀行総裁
千畑 一郎 田辺製薬会長
辻 晴雄 シャープ相談役
堤 清二 セゾンコーポレーション会長
豊島 格 国際経済交流財団会長、前日本貿易振興会理事長
中里 良彦 富士電機相談役
長島 一成 ジャパンエナジー会長
中村寛之助 協和発酵工業相談役
中村 泰三 国際電信電話会長
那須 翔 東京電力会長、経済団体連合会副会長
西尾 哲 日商岩井相談役
萩原 晴二 横浜ゴム会長
羽倉 信也 元第一勧業銀行頭取
嶋山 襄 日本貿易振興会理事長
濱中昭一郎 日本通運社長
早崎 博 住友信託銀行相談役
深田 祐介 作家
福原 義春 資生堂会長、経済団体連合会評議員会副議長
藤井 義弘 日立造船会長、日本経営者団体連盟副会長
藤澤友吉 藤沢薬品工業相談役
藤田 弘道 凸版印刷社長
藤村 宏幸 住原製作所会長
藤村 正哉 三菱マテリアル会長
藤原 雷男 大日本製薬会長
古河潤之助 古河電気工業社長
古川 昌彦 三菱化学会長、経済団体連合会副会長
前田勝之助 東レ会長、経済団体連合会副会長
牧 冬彦 神戸製鋼所相談役、神戸商工会議所会頭
松川 保雄 トーメン相談役
松下 正治 松下電器産業会長
松橋 功 J T B会長
松本 良夫 熊谷組社長
三重野 康 元日本銀行総裁
三田 勝茂 日立製作所相談役
御手洗富士夫 キヤノン社長
水口 弘一 野村総合研究所顧問、経済同友会副代表幹事・専務理事
三野 重和 科ボタ相談役、大阪工業会長
宮内 義彦 オリックス社長、経済同友会副代表幹事
宮村 眞平 三井金属鉱業社長
三好 俊夫 松下電工会長、関西経営者協会会長
日本経営者団体連盟副会長
キッコマン社長、経済同友会副代表幹事
日本税理士会連合会会長
住友化学工業会長
山之内製薬会長
太平洋セメント相談役
三菱商事相談役
三井物産特別顧問
旭化成工業会長
日石三菱相談役
ローテ製薬社長
富士通名誉会長
ユアサコーポレーション会長
伊藤忠商事相談役、経済団体連合会評議員会副議長
朝日生命保険会長
三和銀行会長

- 茂木友三郎 茂木友三郎
森 金次郎 森 英雄
森岡 茂夫 諸井 虔
諸橋 晋六 八尋 俊邦
山口 信夫 山田 菊男
山田 安邦 山本 卓真
湯淺 曜久 米倉 功
若原 泰之 渡辺 澁

- 【京都・滋賀経済界】
秋元 満 京都銀行会長
石田 明 大日本スクリュー製造社長
福盛 和夫 京セラ名誉会長、京都商工会議所会頭
小松 新 日新電機相談役、京都経営者協会会長
坂部三郎相談役
鈴木 正三 日本電池相談役
高橋宗治郎 日本写真印刷会長
滋賀銀行会長、滋賀県商工会議所連合会 会長
滋賀経済同友会代表幹事
ニチコン社長
オムロン社長
平和堂社長
島津製作所相談役
堀場製作所会長
京都中央信用金庫理事長、京都経済同友会代表幹事
川島織物会長
村田機械社長
村田製作所社長

- 【九州】
安藤 昭三 大分銀行会長、大分商工会議所会頭
石井 幸孝 九州旅客鉄道会長
岩切 達郎 宮崎交通社長
江副 茂雄 東海機器会長
大野 茂 九州電力会長、九州・山口経済連合会会長
小野 浩 大分交通会長、大分朝日放送社長、大分県経営者協会会長
神近 義邦 ハウステンボス社長
菊池 功 安川電機会長
上妻 亨 トキハ相談役
後藤 達夫 西日本銀行会長
四島 司 九州松下電器社長
白石 司 福岡シティ銀行頭取
白石 亮二 九電工社長
布江潮之助 福岡銀行頭取
福島親比古 西日本鉄道会長
村山 富市 大分瓦斯社長
吉村 益次 衆議院議員 (大分県出身)
和智 午郎 アステム最高顧問
西部瓦斯相談役

アドバイザー・コミッティ
名誉委員: 11名、インターナショナル委員: 5名、アンバサダーメンバー: 33名
代表世話人3名、世話人5名、委員107名 合計244名(99.4.1現在)
※すべて敬称を略させていただきます。



SCHOLARSHIP

しょうがく きん  
APUの奨学金  
りゅうがく せい たいしやう  
(留学生対象)

がく ひ  
APUの学費

1 APU留学生学費減免制度

APUに、正規生として在籍する留学生に対し、授業料の30%を免除します。この奨学制度は、申請をした留学生は基本的に全員が受給可能です。

2 APU奨学制度

学力優秀者を対象に、受給者を選考します。支給後も毎年度、成績により継続審査があります。

●A奨学生

免除額：年間学費70%（上記□学費減免制度を併用すれば、100%）  
年間生活費 ¥1,000,000

【注意】学費の免除は、1年間36単位を上限としています。  
4年間では、124単位を免除の上限としています。

●B奨学生

免除額：年間学費70%（上記□学費減免制度を併用すれば、100%）

●C奨学生

免除額：年間学費35%（上記□学費減免制度を併用すれば、65%）

3 学習奨励費

（財）日本国際教育協会の奨学金制度で年額約60万円を支給。上記□学費減免制度を併用すれば、年間約90万円の奨学金となります。

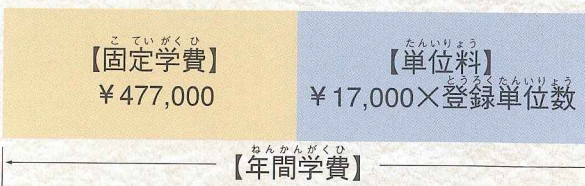
4 その他の奨学金制度

民間奨学財団の奨学金

優秀な人材の育成をはかり、社会の発展と福祉に寄与することを目的とした、民間団体による奨学金制度もたくさんあります。APUに募集依頼のある団体については提示します。入学後、申しこんで下さい。

年間学費

年間学費は、固定学費 ¥477,000 と、単位料 ¥17,000（1単位）の合計です。APUに入学したみなさんは毎年、平均すると30~36単位程度の履修が必要です。その場合の学費は約 ¥1,000,000 となります。



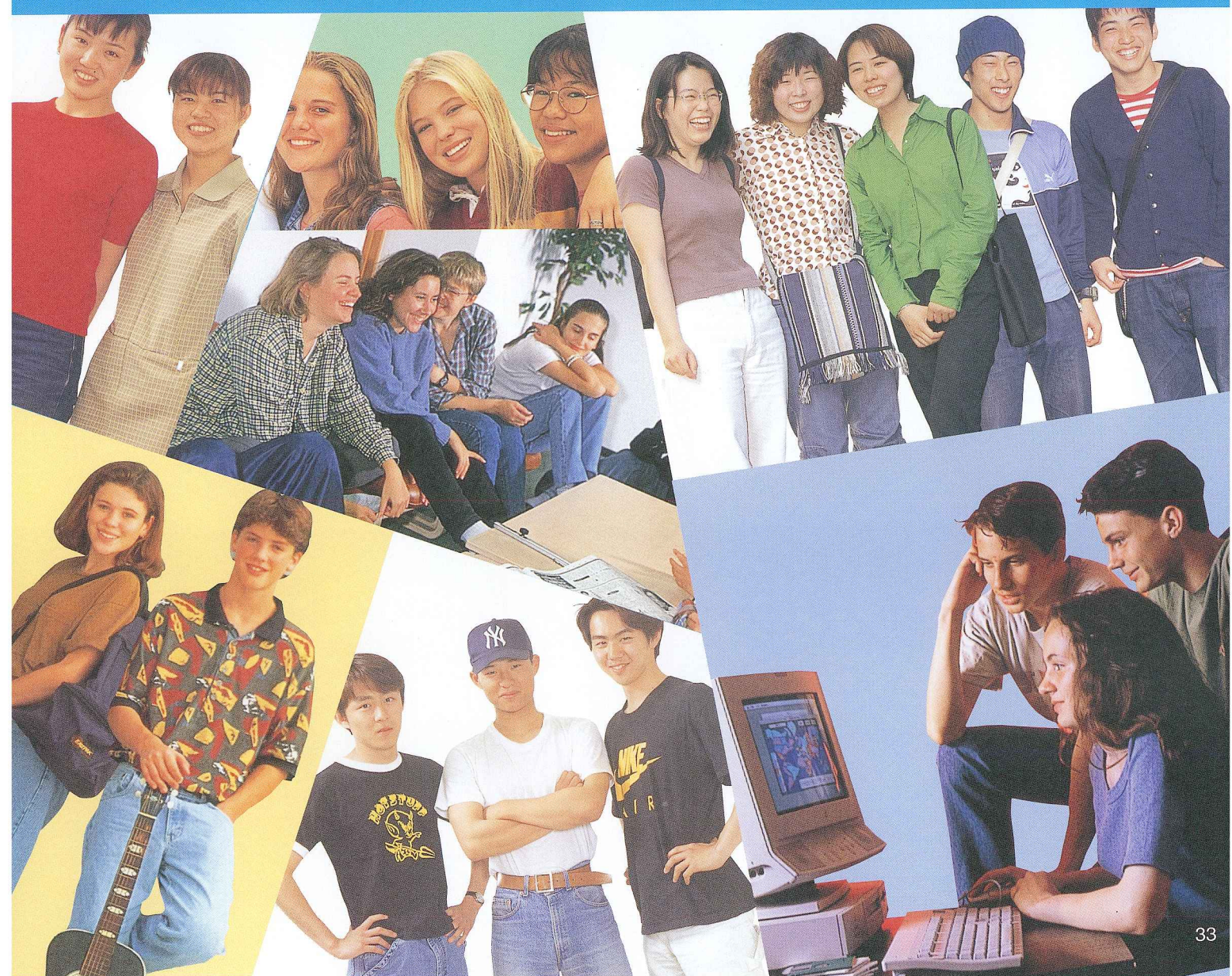


# Campus Life in APU

世界中から集まった仲間たちと、語り合い、学び合い、そしてスポーツや文化活動とともに楽しむ。そんなAPUのキャンパスライフの主人公はあなた自身です。

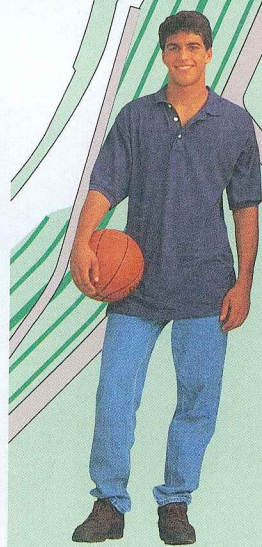
そして学生の半数が海外からやってくるAPUでは、あなたの日本での学生生活が無理なく送れるよう、さまざまなバックアップ体制を準備しています。

さあ、あなたも、マルチカルチュラル・キャンパスAPUの学生生活に仲間入りしてみませんか？





# Campus Map

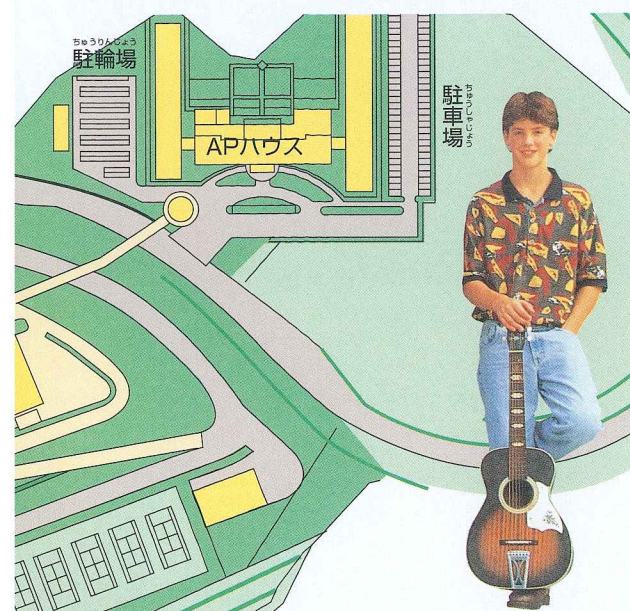


## マルチカルチュラル・コミュニティ、APUのキャンパスライフ。

世界中から学生、教員が集まるAPUは、さまざまな国・地域の言語・文化・生活習慣が交流する、「マルチカルチュラル・コミュニティ」です。当然、そこで繰り広げられるキャンパスライフも、国際色豊かで、知的な刺激に満ちあふれたものになります。

APUでは、学生生活の様々な要素を、ECA(Extra Curricular Activities=正課外活動)と総称し、みなさんの能力を伸ばすための重要な活動として位置づけて様々な援助を行います。具体的には、APUのECAとして、以下のような活動が想定されます。





いま別府市では、西暦2000年4月の開学に向けて、APUキャンパスの建設が進められています。その敷地面積は41.6ヘクタール。キャンパスには最新の設備を満載した様々な施設がゆとりをもって配置されています。その中心は、中央に噴水のある<中央広場>。それををはさんで左右に<研究棟>と<本部棟>があり、さらにそれをとりまく形で、毎日の授業が行われる3階建ての<教室棟>、そして<スチューデントユニオン>や<メディアセンター>、<ミレニアムホール>などが配されています。また地元とタイアップしたイベントなども開催される野外ステージやグラウンド、テニスコートといったスポーツ施設、言語・文化の異なる学生同士が共同生活を送る<APハウス>なども建設されます。



### ■新しい大学づくりに学生が参加

新入生合宿で実施される新入生オリエンテーションなど、教育プログラムに関連するイベントにおいて、SA(スチューデント・アシスタント)をはじめとする学生リーダーが活躍します。また「韓国デー」「中国ウィーク」といったテーマで、国・地域別に展開されるワークショップの運営スタッフとしても積極的に参加してください。

### ■学生が主人公のイベントも多数開催

学術・文化・スポーツ・情報メディアなど、多様なスタイルで学生が自主的に行う活動、イベントなどを活性化させることで、キャンパス内のコミュニケーションと地域交流を促進します。

### ■立命館大学や他大学とも活発に交流

公開討論会やゼミ発表会、合同学術合宿といった学術交流や、スポーツや学術・文化分野のサークル交流、学園祭や各種イベント時の相互訪問など、立命館大学、ならびに他大学とのインターカレッジ活動を活発に行っていきます。

### ■地域にもひろがる交流ネットワーク

大分県や別府市などの公共団体が主催する行事への積極的参加、地域の市民団体などと連携した貢献活動なども積極的に展開されます。

### ■APUならではの国際交流の展開

海外の大学や研究機関との協定をいかした学術イベントや共同研究、環境・平和・人権などのテーマで活動するNGO・NPOとの連携などの活動も積極的に行われます。

### ■サークル活動にも無限の可能性が

学術・文化・スポーツ・情報メディアなどの各分野のサークル活動を大学が公認し、その活動をバックアップします。入学後はみなさんが自由にAPUのサークル活動を創造していき下さい。



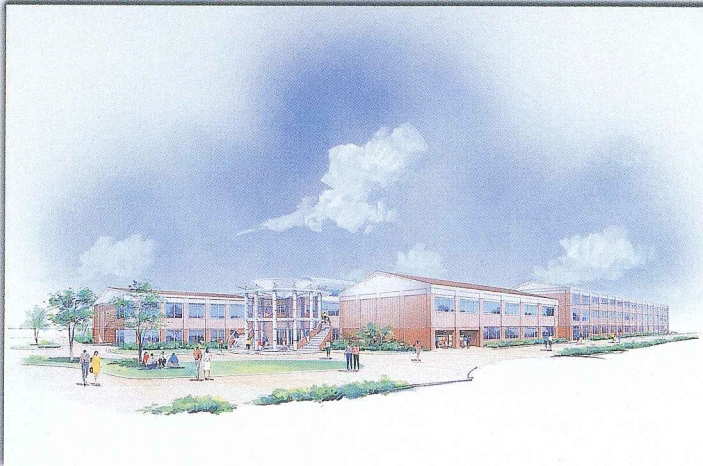


# ここが、アジア太平洋のアカデミズムの

APUが目指す未来型の大学教育を可能にする、  
最新の教育・情報機器が満載された教育施設。

## きょうしつ どう 教室棟

Classrooms



## まな きよてん APUの学びの拠点

3階建ての建物に、様々な授業のスタイルに対応した教室を展開。教室の規模は最大でも300名規模。大規模講義を減らし、ていねいな授業が行われます。＜講義・演習教室＞に加えて、学生たちが言語や文化の違いを越えて交流しあう＜言語ラウンジ＞も設置。ここでは日本語・英語・アジア太平洋言語対応型の情報機器を使ってコミュニケーションの活発化もはかれます。また立命館大学をはじめ、遠隔地で行われている授業をリアルタイムに受講できる＜遠隔講義対応教室＞もあります。

### ■おもな施設

講義・演習教室（30名規模から300名規模まで）  
学習準備コーナー（自習スペース）  
言語ラウンジ  
個人研究室

## メディアセンター

Media Center



## マルチメディア型の学習サポート施設

### ■おもな施設

図書館

AVラウンジ・マルチメディアルーム

マルチメディアラボ I

ACライブラリー

情報処理演習室

CAI教室

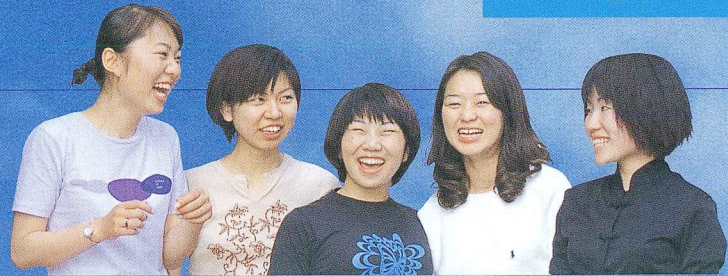
言語担当常勤講師共同研究室

コンサルティング・スペース

地下1階、地上3階建て。図書館機能をはじめ、APUに関連するあらゆる情報を収集・発信する施設として建設されます。インターネットで世界から情報を収集したり、アジア太平洋地域に関する豊富な図書・視聴覚資料を活用したりといった多様なニーズに応えます。なかでも＜AVラウンジ・マルチメディアルーム＞に設置されるマルチメディア端末は、24時間対応可能。ビデオ、CD-ROM、マイクロフィルムなどのマルチメディア資料も多数収蔵されます。

そのほか、コンピュータを活用して言語運用能力を向上させる＜CAI教室＞や、学生が自由に教員スタッフを訪問し、質問やディスカッションを行える＜コンサルティング・スペース＞などもあり、まさにAPUの「知識のマルチメディアセンター」としての活用が期待されます。





# センターとなる。

## けんきゅうとう 研究棟

Faculty Offices



### ● アジア太平洋研究のセンター

地上5階建ての建物で、教員の個人研究室や、アジア太平洋地域の共通課題の解決のための共同研究を推進する<アジア太平洋研究センター>が配置されます。また教員の個人研究室の向かいには、25名程度の小規模クラスで使用する<ゼミ・プロジェクト室>を設置し、教員のもとでていねいな指導を受けることができます。さらに将来の進路就職のためのサポートを行う<キャリア・センター>も設置されます。

#### ■おもな施設

- 個人研究室 (81室)
- ゼミ・プロジェクト室 (9室)
- アジア太平洋研究センター
- キャリア・センター

## ほんぶとう 本部棟

Administration



### ● APUの本部機能と学生サポート機能を集約

学習を進めるうえでの相談業務をはじめ、学生生活全般をサポートする<スチューデントオフィス>や、健康管理や悩みの相談をおこなう<ヘルスクリニック>、<学生相談コーナー>などが収容される、地下1階、地上5階建ての建物です。受験生のみなさんへのアドバイスをおこなう専用ルームがある<アドミッションズオフィス>もこの建物に設置されます。

#### ■おもな施設

- スチューデントオフィス
- ヘルスクリニック
- アドミッションズオフィス
- 学生相談コーナー

## ● One Day in APU

<メディアセンター>の端末をたたいて、来週の授業の予定を確認。ついでに次のセメスター(学期)の授業計画が掲載された「シラバス」も、APUのホームページでチェック。APUではあらゆる情報源がネットワーク化され、自由に入手できる。ついでに個人用のメールボックスを開けると、夏休みに参加したサマーセッションで知り合ったアメリカの友人からメールが届いていた。それから端末にフロッピーをセットして、今週末が提出期限のレポートを教授宛に送信。先生はいま、学会出席のためにシンガポールに帰国中だ。



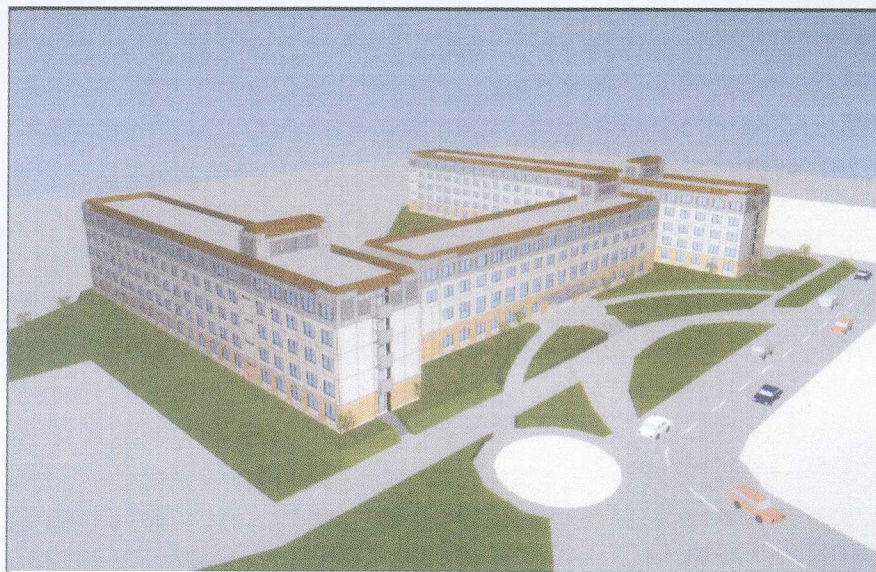


# 世界中の若者が「暮らす」キャンパスは 快適度100%。

全世界の留学生がともに暮らすくAPハウス>をはじめ、マルチカルチュラル・キャンパスならではの生活施設が充実。

## APハウス

Dormitory



## 異文化交流のメインステージ

世界中から学生が集まるAPUならではの学生住居施設で、地上5階建て。世界中の留学生とともに日常生活を通じて交流し、お互いの文化と価値観を理解し合いながら成長していく場として建設されます。居室は一人部屋。共同で使用する浴室のほかに、くプライベートシャワーユニット>もあります。また各国の留学生が自国の料理を披露できるく共同キッチン>もあり、週末のパーティの盛り上がりが予想されます。またこのくAPハウス>はクラス・ゼミやサークル合宿でも使用可能なくセミナー室>も併設しています。

### ■おもな施設（キャンパスに隣接）

- ・居室 \*一人部屋 424室
- \*教員用一人部屋 4室
- \*セミナー用8人一部屋 10室
- ・会議室 2室
- ・プライベートシャワーユニット 各棟各階に設置
- ・浴室および脱衣室 1室
- ・共同キッチン 各棟各階に設置

- ・コインランドリー 各棟各階に設置
- ・メールボックスコーナー
- ・TEL/情報コーナー（パソコン室）
- ・コミュニケーションラウンジ 各棟各階に設置

### ●個室の設備

- ・机・椅子・ベッド・クローゼット・本棚・食器棚・トイレ
- ・洗面台（温水器付き）・下足箱・冷蔵庫・冷暖房設備・プリペイド電話

なお、パソコン用情報コンセントは設置されていませんが、電話モデムで使用可能です。

### ●入寮期間

- ・原則として1年間です。（入学年度）

### ●寮費について（月額）

- ①寮費2万円
- ②共益費7千円（水熱光費含む）※予定

### ●APハウスでの食事

- ①学生食堂で食事をとることができます。
- ②自炊も可能です。（個室に冷蔵庫が標準で設備されており、共同キッチンがあるので料理が可能です。）



がくせいこうせいしせつ  
**学生厚生施設**

Student Center



がくせい じしゅかつどう  
**学生の自主活動のセンターとして**

■おもな施設

レストラン

ショップ(コンビニエンス・書籍・下宿あっせんなど)

学生ラウンジ

マルチメディアラボⅡ

多目的ホール

アミューズメントスペース

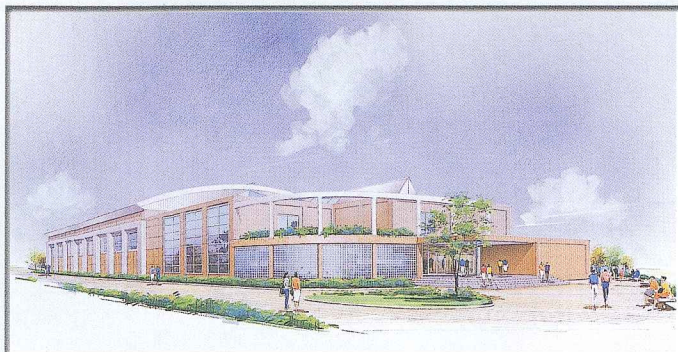
和室

音楽練習室

地上2階建ての建物に、演劇、展示、パーティなどがおこなえる<多目的ホール>をはじめ、音楽サークルが使用できる<音楽練習室>やカラオケスペースなど、様々な自主活動、日常生活のニーズに応える施設を収容予定。レストランはカフェテリア形式で、自由に料理を選んでメニューを組み立てることができます。また撮影・録音・音楽ならびに映像編集・情報発信機能をもつマルチメディアラボⅡは、APUの学生の自主活動のための情報発信拠点です。スタジオはオープンなガラス張りで、ここからこういった情報がみなさんの手で送り出されるのが楽しみです。

たいいくかん  
**体育館**

Physical Education Facilities



アリーナとトレーニングジムを収容

スポーツクラブ・サークルに加入していない人でも、日常の健康管理のためにぜひスポーツに親しみたいもの。この体育館には、最新のマシンを自由に利用できる<トレーニングジム>を設置。またバスケットボールの国際試合にも対応可能なアリーナは、スポーツ・リーグや大学対抗戦など、スポーツ系サークルの活動に大いに利用されるでしょう。

■おもな施設

アリーナ

トレーニングジム

更衣室

シャワールーム

ミーティングルーム

**LIVING**

げしゅくあっせん じゅんび しんこうちゆう  
**下宿斡旋の準備も進行中**

2年生以降は、APハウスから民間の下宿へ移り、地域との交流を図ります。東京圏や関西圏に比べて物価も安く、家賃も安いのが別府市の魅力。別府市の家賃の相場は、広めのワンルームでバス・トイレセパレートタイプの部屋で3万円台。同様の部屋が東京圏だと6万円以上、京都でも5万円前後かかることを考えるとかなり安い家賃といえます。



※施設各称は仮称です。







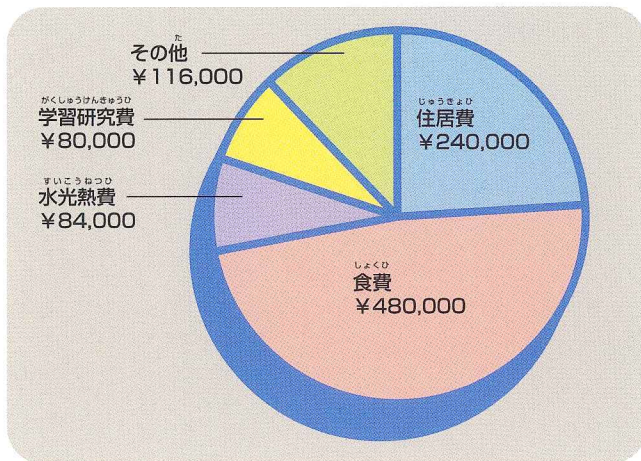
# いよいよ始まるAPUでの学生生活。 初めて日本で暮らす人でも安心です。

日本での生活に必要な費用は、以下の通りです。このデータを参考に、あなたの生活設計をしてください。一般的に東京や大阪といった大都市と比べてAPUのある別府市は住居費をはじめ物価も安く、暮らしやすい環境といえます。また病気やけがなどの際も安心して治療が受けられます。



## 生活費は？

1年間の生活費は、平均して¥1,000,000です。生活費はもちろん人によって異なりますが、平均的な例は以下のとおりです。



## 病気にかかったときは？



### ●ヘルスクリニック

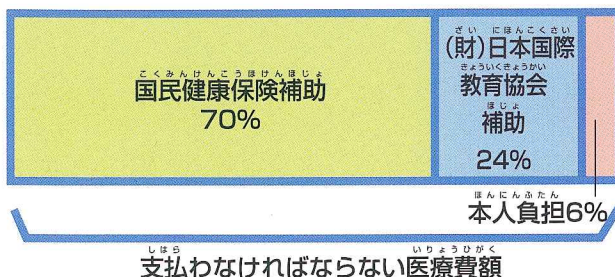
定期健康診断、日常的な応急処置、健康相談、心理相談等を行います。夜間や学外での発病の場合にも、近隣の医療機関とのネットワークを使い、対応します。

### ●カウンセリングルーム

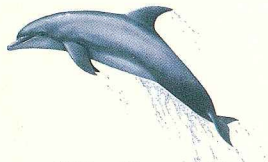
ヘルスクリニックには、カウンセリングルームが併設されています。日英両言語で対応できるカウンセラーがどんな些細な相談にも、その内容の秘密を守りながら応じます。

### ●健康保険

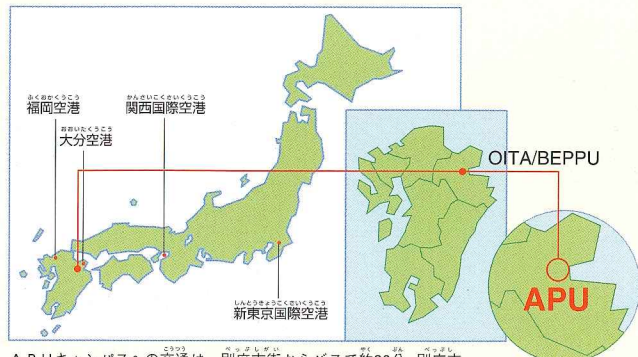
日本に1年以上滞在する留学生は、「国民健康保険」に加入することが義務づけられています。1999年4月現在、別府市での留学生の保険料は年額15,400円です（申請すれば、大分県が保険料の半額を補助します）。国民健康保険に加入すると、医療費の30%のみ、本人が支払うことになります。また、これに加えて、(財)日本国際教育協会の医療費補助制度に登録すると、本人の医療費負担は6%になります。







アジア太平洋の未来をともに創造するために、  
あなたの入学を心からお待ちしております。



A P U キャンパスへの交通は、別府市街からバスで約20分。別府市  
内から大分空港まではバスで約35分の距離です。A P U と海外とを  
つなぐ空港としては、アジア・オセアニア全域へと直行便が運行さ  
れている福岡空港が活用されます。

# APU

学校法人立命館 立命館アジア太平洋大学開設事務局

〒603-8577 京都市北区等持院北町56番地の1

Planning Division for Ritsumeikan Asia Pacific University

ADDRESS: 56-1 Tojiin Kitamachi, Kita-ku, Kyoto 603-8577, JAPAN

TELEPHONE: 81(Japan)-75-465-8370

FACSIMILE: 81(Japan)-75-465-8371

EMAIL: ml-apu4u@ml.ritsumei.ac.jp

URL: <http://www.apu.ritsumei.ac.jp>

Ritumeikan Apu Office of Korea

ADDRESS: 1305-8 Seocho-Dong Seocho-ku Seoul  
Dongil B/D802 Korea

TELEPHONE: 82(Korea)-2-3481-8287

FACSIMILE: 82(Korea)-2-3481-8288

Kantor Persiapan Pendirian Univ. Ritsumeikan Asia Pasifik  
Cabang Indonesia

ADDRESS: No.24JL.Ciniru 3,Kebayoran Baru  
Jakarta Indonesia

TELEPHONE: 62(Indonesia)-21-726-1874

FACSIMILE: 62(Indonesia)-21-725-4310

Liaison Representative in India

Dr.SATYA BHUSHAN VERMA,  
visiting Prof. of Ritsumeikan Center for  
Asia Pacific Studies.

ADDRESS: D-3/3585 Vasant Kunj New  
Delhi-110070,India

TELEPHONE: 91(India)-11-6122270

FACSIMILE: 91(India)-11-6893630

Liaison Representative in Thailand

Dr.TWEE HORMCHONG  
visiting Prof. of Ritsumeikan Center for  
Asia Pacific Studies.

ADDRESS: 99/14 Soi 84 Petkasem Road  
Bangkok 10160 Thailand

Tel/Fax: 66(Thailand)-2-413-0275

Liaison Representative in Taiwan

Dr.LIU RON JING.  
ADDRESS: Taipei(Opening in August 1999)